

# 社会福祉法人廿日市市社会福祉協議会

## 令和元年度事業報告

### はじめに

国は福祉改革の基本コンセプトとして「地域共生社会の実現」を位置づけており、社会福祉法においては、住民に身近な圏域で住民が主体的に地域課題を把握して解決を試みる体制づくりの推進が明記されています。

これまで廿日市市社協は、地域の福祉力の強化を目指し、地域と共にさまざまな取組を推進してきました。令和元年度は、地域共生社会の実現に向けて、地域の生活・福祉課題にあわせて、世代や分野をまたがって総合的に提供することを目指して必要な取組を展開しました。今後も、各地域での取組みがより一層推進されるよう、廿日市市や関係機関・団体等と連携・協働しながら、地域福祉の中核的な役割を果たしていく必要があります。

また、廿日市市社協の組織力強化の具体的方策についても検討を重ねました。次年度は中期経営計画の最終年度にあたるため、さらに具体的な計画を策定する予定です。

### 令和元年度の取組みの評価

次の4点の基本方針に基づいて、誰もが安心して自分らしく暮らせる「福祉のまちづくり」の推進に取り組みました。

#### ●基本方針① みんなで支え合って暮らせる地域づくり

身近な地域の中で、誰もが気軽に集まれる「場」づくりの支援や、まずは「顔見知り」になってもらえるようなさまざまなイベントを企画しました。

今後は、認知症や障がいのある人、学校にいけない子どもや、家にひきこもっている人等の地域の居場所づくりを進める必要があります。

#### ●基本方針② 願いをカタチにしていく事業づくり

地域の中で話し合いの場づくりをすすめながら、地域の実態把握やニーズ把握を行いました。また、窓口に寄せられるさまざまな相談内容を分析し、地域生活課題の把握に努めました

今後は、映像化等による地域の実情の「見える化」をすすめ、住民の願いに基づいた取組み、地域の実態に即した事業を展開していきます。

#### ●基本方針③ 福祉の“わ”を広げる人づくり

廿日市市におけるひきこもり支援の取組の必要性について、関係機関、団体と継続的

に協議を重ねました。包括的な総合相談支援ネットワークの構築の必要性を共有しました。

今後は、廿日市市社協の役割と使命を再確認するとともに、これまで、廿日市地域限定で実施してきた「不登校・ひきこもり支援事業」を全域事業とし、計画的に推進していきます。

#### ●基本方針④ 魅力ある社協組織づくり

廿日市市社協を広く知っていたい、親しまれる組織になるために、社協広報紙「あいとぴあ」の内容の見直しを行いました。また、社協の窓口に訪れやすい雰囲気づくりにも努めました。

今後は、さらに誰もが参加・参画できる組織を目指し、他機関・組織等との連携を強化するとともに、福祉課題解決に向けて協働して取り組む体制づくりを進めています。

#### 事業の詳細

事業の詳細は、次ページ以降のとおりです。

(廿日市市地域福祉計画に示されている5つの基本目標にあわせて編集しています。)

#### 基本目標

- 1 社会参加や役割発揮のための人づくり、参加の入口づくりを進めます
- 2 組織（主体）の意識や活動を進化させます
- 3 地域の問題解決に必要な情報を共有します
- 4 社会的孤立を見逃さないための仕組みづくりを進めます
- 5 多様な主体の強みを生かした新しい支えあいを育てます

◆廿日市市全域事業 P. 3 ~ P. 26

◆廿日市地域事業 P. 27 ~ P. 32

◆佐伯地域事業 P. 33 ~ P. 38

◆吉和地域事業 P. 39 ~ P. 44

◆大野地域事業 P. 45 ~ P. 51

◆宮島地域事業 P. 52 ~ P. 53

●円滑な事業推進体制のために P. 54 ~ P. 58

# 基本目標（1） 社会参加や役割発揮のための人づくり 参加の入口づくりを進めます

地域活動をしていくきっかけとなる講座の開催、そして、誰もが気軽に参加でき、役割を発揮できる場を地域の中に作っていくための事業を実施した。

## 1 ボランティア活動支援事業 (市補助 55千円)

福祉活動の担い手であるボランティアの活動の円滑な推進を支援すると共に、市内の小中学校が取り組む福祉教育活動に対し支援した。

- (1) ボランティア養成及び啓発活動
- (2) 福祉教育の支援（相談・ボランティア調整・体験指導・機材貸出し等）
  - (1) (2) については随時地域のボランティアセンターで実施
- (3) ささえ愛ネットはつかいちの活動支援

全域での活動は平成 29 年度から休止しており、今年度も廿日市市全域でのボランティアが集まる機会はもっていない。各支部の活動状況に関しては、各事務所のボランティアコーディネーター間で情報共有を行ない、それぞれの支部へのフィードバックを行なった

- (4) ボランティア活動保険のとりまとめを行なった。

登録者 2,085 人（昨年度 2,808 人）

- (5) ボランティア活動人材の広域活動支援（新規）

ボランティア登録カードを更新し、登録したボランティアが市内全地域で活動できるよう、各事務所での情報共有と情報伝達の仕組みづくりを行なった。

## 2 ファミリー・サポート・センター事業 (市委託・自主 8,577千円)

多様化する福祉ニーズ、とりわけ少子高齢社会に対応するため、依頼会員と提供会員の橋渡しを行なった。また、活動を通して依頼会員と提供会員の間に“ほっと”なつながりや気軽に“SOS”が出せる関係づくりができるることを目指した。

（ ）内は前年度実績

登録会員数	1,314 人【依頼会員 918 人、提供会員 348 人、両方会員 48 人】 (1,261 人【依頼会員 877 人、提供会員 337 人、両方会員 47 人】)
利用（活動） 実績	1,732 件【育児 375 件、介護 1,357 件】 (2,207 件【育児 480 件、介護 1,727 件】)
広報活動	市社協広報紙「あいとぴあ」記事掲載2回 提供会員募集記事、研修会案内記事を掲載 「ファミサポだより」発行2回（うち1回は市社協広報紙掲載） ふれあいサロン・市社協ホームページで随時提供会員を募集
研修会・交 流会の開催	研修交流会開催（9回・参加者 194 人） 研修会内容 6/27 子育てサポーター養成講座（4 人） 7/10 障がいのある子どもの理解と関わり方（34 人） 8/22 精神保健ボランティア講座（20 人） 9/13 精神保健ボランティア講座（11 人）

	11/21 子育てサポーター養成講座（5人） 11/22 調理研修・交流会・赤十字幼児安全法（18人） 1/16 個人情報とプライバシーについて（34人） 2/9 認知症サポーター養成講座（68人） 3/29 「認知症当事者支援のあり方について」講演会 中止
--	---

[令和元年度重点的に取り組む事項]

- ・ファミサポ以外のボランティア活動の場やサロンなどへ積極的に出向き、多様な技量を持った人材を発掘する。  
→ふれあいサロンに出向いて、ファミサポの活動の内容の説明や提供会員の募集を行い、1人提供会員の登録があった。
- ・地域で行われている助け合い活動と連携、役割分担を行う。  
→子育て支援では、廿日市・大野地区保育サポート支援グループ「みつばちばあやの会」と連携し、役割分担を行ながら活動にあたった。高齢者支援では小地域の助け合い活動との連携に至らず、次年度への課題とする。

## 基本目標（2）組織（主体）の意識や活動を進化させます

既存の地域福祉を推進する基礎組織と連携しながら、地域における生活課題や福祉課題を解決するための「地域の役割」について協議する場づくりを重層的にすすめた。

### 1 生活支援体制整備事業【重点】(市委託 26,681千円)

高齢者の日常生活を支えていくための生活支援の仕組みづくりと、高齢者の社会参加促進に向けて、地域の多様な担い手による受け皿確保のための基盤整備を、地域住民と共にすすめた。

また、地域内で福祉課題や資源の情報共有、地域資源の更新の仕組みづくりを協議する協議体の整備をすすめた。

#### (1) 全域

- ・廿日市市地域ケア推進協議会（8/26・2/19）
- ・市高齢介護課との業務連携会議（12回）
- ・リハビリ士会との業務連携会議（6/7・9/13・12/20）
- ・百歳体操交流会（12/7）

#### (2) 廿日市地域

##### ①第2層圏域

- ・ささえあいのまちづくり情報交換会（6/14 44人参加）
- ・ささえあいのまちづくり情報交換会（10/25 39人参加）
- ・ささえあいのまちづくり情報交換会（2/8 44人参加）

##### ②第3層圏域

###### ア 佐方地区

- ・佐方アイラブ自治会合同研修会（4/24）

###### イ 廿日市地区

- ・福祉の会定例会議出席（26回）
- ・サロン代表者会議（7/1・10/7・1/6）
- ・百歳体操五千人突破記念（7/25）

###### ウ 平良地区

- ・平良地区福祉をすすめる会（6/12・10/21・12/4）
- ・平良地区福祉をすすめる会打合せ（5/20・5/30・8/19）
- ・平良地区講演会（9/25・1/22）
- ・サンサンひろば2周年記念（4/15）

###### エ 原地区

- ・原地区コミュニティ福祉部との協議（9回）
- ・見守りネットワーク勉強会（12/12）
- ・原お互いさまネット（2/18）

###### オ 宮内地区

- ・野村病院との協議（6/28）

###### カ 串戸地区

- ・串戸地区自治協議会福祉部との協議（6/17）
- ・串戸地区自治協議会女性部との協議（1/23）
- ・串戸地区自治協議会主催事業における地域情報収集（6回）

###### キ 地御前地区

- ・地御前長寿会との情報交換（5/9）
- ・地御前地区自治会福祉部との協議（9/13・11/22）

ク 阿品地区

- ・コミュニティをすすめる会との協議（10/11）

ケ 阿品台地区

- ・地域活動における情報収集（2/20）

コ 宮園地区

- ・ほほえみ宮園定例会（6/15・11/30・2/15）
- ・宮園地区福祉委員会（6/15）

サ 四季が丘地区

- ・サロン・ド・四季が丘運営委員会（6回）
- ・四季が丘福祉委員会（10/23・1/8）

### （3）佐伯地域

#### ①第2層圏域

- ・第2層協議体推進会議（7/29・10/1・2/6・3/10）
- ・地域ケア会議（4/24・6/25・7/24）

#### ②第3層圏域

ア 玖島地区

- ・玖島地区コミュニティ推進協議会役員会（6/18）
- ・出前サロン（玖島一丁目集会所 6/18）
- ・出前サロン（浅原市野 6/27）

イ 友和地区

- ・友和地区コミュニティ推進協議会役員会（6/29）
- ・友和地区コミュニティ推進協議会会长との協議（2/12）

ウ 津田・四和地区

- ・赤ちゃんすくすく（7/12・11/8）

エ 浅原地区

- ・浅原の未来を創る会役員会（7/23）
- ・地域の未来づくり講演会（11/30）

### （4）吉和地域

- ・地域連絡会議（毎月1回開催、年11回）  
　　新型コロナウィルス感染拡大防止のため、令和2年3月は中止。
- ・あつまろう家実行委員会（5/8・12/11）
- ・あつまろう家（7/24）
- ・生涯暮らし続けられる吉和地域をつくる会（7/17 14人参加）

### （5）大野地域

#### ①第2層圏域

- ・大野地域福祉推進委員会（7/3 36人参加）
- ・大野地域福祉推進委員会（1/31 38人参加）
- ・地域ケア会議（5/22・7/5・9/25・11/27・1/10）
- ・大野区長会（4/5・5/9・12/3・1/7・2/4）

#### ②第3層圏域

ア 大野1区

- ・福祉部会視察研修（12/16）

イ 大野2区

- ・福祉推進委員会（5/10・2/14）

- ・大野2区役員会（7/7・10/21）
- ・サロン運営世話人会（12/25・1/29・2/18）
- ・大野2区区長への聞き取り（1/20）
- ・大野2区福祉部会長への聞き取り（7/30）
- ・大野2区活動団体代表への聞き取り（12/13）

ウ 大野8区

- ・大野8区区長への聞き取り（6/3・7/3・11/1）

エ 大野10区

- ・大野10区区長との打合せ（4/9）
- ・大野10区三役会（4/18）
- ・大野10区区長への聞き取り（7/9・8/23）
- ・サロン世話人役員会（5/16・6/20）

オ 大野11区

- ・大野11区役員会（2/12）

(6) 宮島地域

- ・宮島地域コミュニティ推進協議会生活環境部会（5/16・7/25・12/5）
- ・宮島支所地域づくりグループとの協議（4/12・7/18・7/23・11/14）
- ・宮島地域コミュニティ推進協議会会长との協議（7/23・12/4・2/5）
- ・包括プランチ宮島との協議（10/31）
- ・地域ケア会議（11/26）
- ・福祉を考える会（2/25）

**令和元年度重点的に取り組む事項**

- ・協議体立ち上げ支援のため、地域へ働きかけを継続し、市内28地区（コミュニティ）での協議体づくりを目指す。  
→大野10区で第3層協議体が新たに立ちあがった。その他の地区においても協議体立ち上げのための働きかけを継続して行なっている。
- ・第2層協議体が立ち上がった地域においては、第3層協議体と連動し、地域の共通課題等を第1層協議体に提案し、解決方策の検討につなげる。  
→第1層協議体への提案には至っていないが、第2層域において、地域の共通課題等の抽出を行なった。

(廿日市地域)

第3層域（11地区）の協議体未設置地区への立ち上げ支援を計画的に進める。また、平成30年度に立ち上がった第2層協議体準備会の本格稼働を進め、第3層協議体と連動し、地域の共通課題の見える化を進める。  
→第3層域の協議体未設置地区への立ち上げ支援を引き続き行なった。また、第2層協議体準備会を3回開催し、廿日市地域の共通課題について協議を行なった。

(佐伯地域)

第3層協議体設置に向けた働きかけを計画的に進め、第3層協議体メンバー（代表者）の地域ケア会議への出席を呼びかける。また、第2層域と第3層域が連動することで、地域ケア会議の協議体機能の強化につなげる。

→佐伯地域を玖島地区・友和地区・津田四和地区・浅原地区の4地区に分け、それぞれに第3層協議体設置に向けて働きかけた。また、サロン等に参加し、生活支援体制整備事業について説明した。

(吉和地域)

「生涯暮らし続けられる吉和地域をつくる会」を、吉和地域の第2層協議体と捉え、協議の場の提供、情報提供・情報収集・啓発研修などを行う。

→地域住民が主体となり、継続して取り組めるよう会議等の後方支援を行なった。  
(大野地域)

第2層協議体（大野地域福祉推進委員会）の運営、大野第2・8区の第3層協議体の支援、及び他の区の第3層協議体設置に向けた働きかけを行う。

→大野第2区については、福祉推進委員会からメンバーを抽出し「地域福祉推進委員会(仮)」を設置することとした。10区については、既存のサロン世話人会を協議体と位置づけることとした。その他の区については、働きかけが十分ではなかった。

(宮島地域)

宮島地域推進コミュニティ協議会に、協議体の機能を持つてもらうよう継続的に働きかける。

→第2層域協議体設置について、宮島地域コミュニティ推進協議会生活環境部会で提案しており、引き続き第2層協議体設置に向けた協議を行なった。また、地域ケア会議を中心に地域の世話人等も加わった「福祉を考える会」を設立し、第3層協議体として活動できるように支援を行なった。

## 基本目標（3） 地域の問題解決に必要な情報を共有します

福祉総合相談事業を入り口としたニーズ把握、ニーズに基づく事業の展開について、広報活動を行なった。

### 1 福祉総合相談事業（自主・市補助 1,514千円）

市民の相談ごと、悩みなどの解決支援等のために、次の相談事業を行なった。

#### (1) 心配ごと相談の実施

32人の相談員を委嘱し、「心配ごと相談所」を開設した。

地域	開催日時	場所	開催回数	相談件数
廿日市	毎週火・金曜日 (13:00~16:00)	廿日市市総合健康福祉センター (山崎本社みんなのあいプラザ)	101回	56件
佐伯	毎週水曜日 (13:00~16:00)	佐伯社会福祉センター	50回	7件
吉和	原則第2・4月曜日 (13:00~16:00)	吉和福祉センター (すこやかプラザ)	18回	6件
大野	毎週木曜日 (13:00~16:00)	第1~3・5木曜：大野支所 第4木曜：大野東市民センター	60回	26件
宮島	原則第1・3月曜日 (13:00~16:00)	宮島福祉センター	20回	6件

#### (2) 福祉総合相談の実施

開設日時は、土・日・祝祭日を除く毎日9:00~17:00

#### (3) 専門相談の実施

項目	協力機関・団体	開催回数	相談件数
司法書士法律相談	広島司法書士会広島西支部	合計12回 (廿) 計8回 (佐) 計2回 (大) 計2回	合計60件 (廿) 計46件 (佐) 計6件 (大) 計8件
認知症介護相談	認知症の人と家族の会・廿日市	6回	6件
	認知症の人と家族の会・大野	12回	12件

#### (4) 心配ごと相談員研修の開催

心配ごと相談員の専門性と資質向上のための研修会を各地域において開催した。

地域	廿日市	佐伯	吉和	大野	宮島
開催月	6月・9月・12月	7月	なし	3月(中止)	なし

#### (5) 全相談件数等の前年度との比較実績

項目	元年度	30年度
心配ごと相談件数	101件	88件
福祉総合相談件数	86件	130件
専門相談件数(司法書士・認知症)	78件	76件

#### [令和元年度重点的に取り組む事項]

- ・小冊子「くらしの相談」の情報を随時更新し、市社協ホームページや広報等を活用し、市民に周知する。

- 情報を整理しホームページに公開した。また、小冊子「くらしの相談」を改訂し相談員に配布した。
- ・相談員全体研修を定期的に開催し、相談員の相談スキルの向上を図る。
  - 相談員研修（大野）に他地域相談員も参加できるよう企画した。（新型コロナウィルス感染拡大防止のため中止）
- ・大野地域に新たに心配ごと相談所（大野東市民センター）を開設する。
  - 大野東市民センターに心配ごと相談所を開設し、市民の相談の場をより充実させた。

## 2 広報啓発事業（自主・共募 1,960千円）

広報紙の発行やインターネットを利用した情報提供を通じ、市民や各種機関に広く市社協の取組みや市内の福祉活動の動向を周知し、住民の福祉への関心を高め、福祉活動への協力者を増やした。

### (1) 市社協パンフレットの発行

市社協事業の概要を掲載したパンフレットを各戸に配布し、市社協の事業を広く住民に周知した。

### (2) 市社協広報紙「あいとぴあ」の発行

偶数月の1日に市社協広報紙「あいとぴあ」を新聞折込みなどで各戸に配布し、市社協の取組みや行事案内、地域の福祉情報を広く住民に周知した。

### (3) ホームページの運営

市社協の取組みや行事案内、ボランティアの募集など地域の福祉情報をホームページに掲載し、タイムリーな情報を住民に周知した。

#### [令和元年度重点的に取り組む事項]

- ・市社協広報紙「あいとぴあ」の記事内容を、単に活動報告、募集内容、研修案内等にとどまらず、事業方針や展開について重点を置き発信し、具体的な活動内容や思いが伝わりやすくなるよう、特集の組み方やレイアウトを工夫する。
  - 「社協コラム」を開始し、市社協の考え方や具体的な取り組みについて、地域住民の理解を得られるよう発信の仕方を工夫した。
- ・ホームページを活用して、今後も隨時「お知らせ」を更新し、分かりやすく実用的な「事業・サービス紹介」を増やした情報を発信する。
  - 分かりやすく実用的な「事業・サービス紹介」を増やすことには至っていないが、隨時「お知らせ」を更新し住民に対して、タイムリーに情報を発信した。

## 3 情報支援事業（市委託 346千円）

聴覚や視覚に障がいのある人たちへの各種支援を実施した。

### (1) 奉仕員の派遣

手話奉仕員、要約筆記奉仕員を派遣し意思伝達の手段を確保した。

聴覚障がい者への情報保障のために、講演会、会議等へ手話奉仕員及び要約筆記奉仕員の派遣調整を行なった。

## 【手話派遣実績】

( )内は前年度実績

	件数	時間数	利用者数	実働者数	登録通訳者数
個人派遣	232 件 (334 件)	388 時間 (542 時間)	26 人 (28 人)	24 人 (26 人)	34 人 (33 人)
団体派遣	5 件 (3 件)	16.5 時間 (12 時間)	—	9 人 (6 人)	—

## 【要約筆記派遣実績】

( )内は前年度実績

	件数	時間数	利用者数	実働者数	登録通訳者数
個人派遣	46 件 (53 件)	190 時間 (230 時間)	5 人 (3 人)	9 人 (7 人)	14 人 (13 人)
団体派遣	11 件 (27 件)	29 時間 (71 時間)	—	36 人 (108 人)	—

## (2) 奉仕員の養成

## ア 要約筆記奉仕員養成講座

要約筆記奉仕員養成講座を開催した。

講座回数 全 5 回 5 時間 (延べ 25 時間) 参加者 : 5 人 (修了 5 人)

## イ 点訳ボランティア養成講座

点訳ボランティア養成講座を開催した。

講座回数 全 5 回 2 時間 (延べ 10 時間) 参加者 : 9 人 (修了 9 人)

## ウ 音訳奉仕員スキルアップ講座

活動中の音訳奉仕員のレベルアップのために、音訳奉仕員スキルアップ講座を開催を予定していたが、新型コロナウィルス感染拡大防止のため中止した。

## エ 手話奉仕員スキルアップ講座

活動中の手話奉仕員のレベルアップのために、手話奉仕員スキルアップ講座を開催を予定していたが、新型コロナウィルス感染拡大防止のため中止した。

## (3) 情報の提供

視覚障がい者への音訳テープとして、「広報はつかいち」(毎月 1 日発行)、「さくらぴあ物語」(奇数月 1 日発行)、「市議会だよりさくら」(5・8・11・2月の原則 10 日発行)、「あいとぴあ」(偶数月 1 日発行)、点訳本として「広報はつかいち」(毎月 1 日発行)、「さくらぴあ物語」(奇数月 1 日発行)、「市議会だよりさくら」(5・8・11・2月の原則 10 日発行)「あいとぴあ」(偶数月 1 日発行)などを提供した。

## (4) 音訳・点訳 定期・不定期発行物一覧を作成した。(新規)

## [令和元年度重点的に取り組む事項]

- 要約筆記奉仕員養成講座を開催する。

→9/7～10/12まで全 5 回開催し、5 人参加があった。ボランティアサークルと協議し、通年で要約筆記者の養成ができるよう調整を行なった。

## 基本目標（4） 社会的孤立を見逃さないための 仕組みづくりを進めます

高齢や、障がい、その他さまざまな理由で社会的孤立しがちな対象者を見逃さないために、行政等からの委託事業、自主事業などを実施する中で、新たなニーズ発掘を行なった。

### 1 福祉車両貸出事業（市委託・自主4,139千円）

廿日市・佐伯・吉和・大野事務所に5台のリフトカー等福祉車両を配置し、移動の手段が一般車両では困難な市民や、福祉団体に貸し出した。リハビリやスポーツ、美容院、家族との小旅行、当事者団体のつどい、講演会・会議などへの参加手段として利用があった。

【貸出件数】 ( ) 内は前年度実績

廿日市全域	廿日市	佐伯	吉和	大野
5台	2台	1台	1台	1台
539件(590件)	291件(346件)	63件(69件)	121件(142件)	64件(33件)

#### [令和元年度重点的に取り組む事項]

- ・市の運行要綱に沿った事業の在り方と利用者にとって使いやすい、公平な事業となっているかについて検討する。  
→担当者間で協議し、ガソリンの給油について明確化し、利用者に平等にお互い様の気持ちで利用していただくよう周知を行なった。
- ・利用促進に向けた周知を行う。  
→チラシを作成し、運転ボランティアの募集や、福祉車両貸出事業について周知を行なった。

### 2 認知症高齢者等支援事業（市委託・自主・共募1,165千円）

認知症等になっても住み慣れた地域で暮らし続けることができる地域づくりを目指し、次のとおり事業を展開した。

#### (1) 認知症にやさしい地域づくりネットワークの形成

はいかいSOSネットワークとの連携により、行方不明者の早期発見・保護に努めた。

対応件数	無事発見・保護件数	事前登録者数
6件	6件	117人

ア はいかいSOSネットワーク運営連絡会議の開催（8/19）

イ はいかいSOSネットワーク講演会の開催

開催日	内 容	参加者
3/29	誰もが安心して暮らせる廿日市を考えるつどい 【講演・実践発表】 「認知症でも笑顔のままで」 講師：名古屋市若年性認知症本人・家族交流会 「あゆみ会」メンバー 山田 真由美 さん 名古屋市認知症相談支援センター 若年性認知症相談支援コーディネーター	中止

	<b>鬼頭 史樹 さん</b> <b>【パネルディスカッション】</b> <b>～廿日市市における当事者支援の今後のあり方について～</b> <b>(新型コロナウィルス感染拡大防止のため中止)</b>	
--	---	--

ウ 啓発活動の実施

関係諸機関と連携しながら啓発活動に努めた。

開催日	会場	内 容
10/10 ～10/14	フジグランナタリー	健康フェスタ (認知症・介護相談、福祉のお仕事相談他)

(2) 徘徊高齢者家族支援サービスの実施

位置検索端末機の貸出し実績 7台（保有台数 13台）

(3) 認知症高齢者支援会議の開催

年6回、関係者が集まり、認知症関連事業の取組みについて協議した。

(4) キャラバン・メイトによる地域・職域・学校での認知症サポーター養成講座の開催

分類	受講団体	回数	受講者
地域	老人クラブ、サロン、町内会 他	7回	409人
職域	廿日市郵便局、明治安田生命保険相互会社、廿日市警察署	3回	82人
学校	日本赤十字広島看護大学、津田小学校、大野東小学校、大野西小学校、廿日市小学校、廿日市中学校、宮島小学校	7回	410人
計		17回	901人

(5) キャラバン・メイト連絡協議会の運営

ア キャラバン・メイト運営推進委員会の開催 (12/16)

イ キャラバン・メイト全体会及び研修会の開催 (2/9)

ウ キャラバン・メイト地域部会の開催

(ア) 廿日市地域

・キャラバン・メイト廿日市地域部会 (年2回: 5/30・10/10)

(イ) 佐伯・吉和地域

・キャラバン・メイト佐伯・吉和地域部会 (年1回: 5/24)

(ウ) 大野・宮島地域

・キャラバン・メイト大野・宮島地域部会 (年5回: 4/11・6/13・8/8・10/10・12/5)

[令和元年度重点的に取り組む事項]

- ・徘徊高齢者家族支援サービスの貸出機器であるココセコムについて、現貸出機器より性能等が優れた機器があれば移行を検討するため、アンケート調査の分析や機器の試行により、令和2年度からの移行に努める。  
→市高齢介護課と協議(計3回)を行い、今後ココセコムに変わる他機器についての導入を検討、情報共有を行なった。令和4年度からの移行に向けて、引き続き検討する。
- ・各市民センター、市役所等での認知症サポーター養成講座を開催する。(廿日市地域)  
→廿日市警察署で開催。はいかいSOSの検索や認知症の人の対応など、認知症についての理解を深める機会となった。
- ・大野地域の住民全体を対象とした認知症サポーター養成講座を開催する。(大野地域)  
→8/31 大野東市民センターにて開催(受講者220人) 12/10 大野支所にて開催(受講者44人)

### 3 地域の集いの場立ち上げ支援事業 (市委託 608千円)

地域の高齢者が集える場の新規立ち上げに対し助成金を交付し、新たなつどい・サロンづくりの支援を行なった。

#### ・助成実績

##### 計 22 団体助成

(廿日市地域) わいわいカフェ、お達者クラブ、サロン六本松、笑いヨガサロン阿品台北、ふれあいクラブ峰高、あじさいの会、ほっこり家、陽だまりの会、サンサンひろば、健康体操の会、仲よしサロン、サロンひまわり

(佐伯地域) サロンすまいる、下友田サロン、永原上和の会、所山おきな草の会、林サロンみのり、なかよしサロン、カラオケサロン

(大野地域) トークサロン、おしゃべりサロン沖山

### 4 生活困窮者自立相談支援事業 (市委託・共募 17,500千円)

生活困窮者が抱える多様で複雑な問題について、生活困窮者からの相談に応じ、必要な情報提供及び助言を行うとともに、さまざまな支援を一体的かつ計画的に行うことにより、生活困窮者の自立への促進に寄与した。

#### (1) 活動実績及び件数

項目	件 数
新規相談受付	243 件
自立支援計画作成	64 件（再作成含む）
自立支援計画評価	73 件（うち終結 52 件） 一般就労達成 10 件
支援継続中ケース数（3月末）	109 件
住居確保給付金申込受付	1 件
一時生活支援事業申請受付	3 件
生活困窮者支援調整会議の開催	定期 12 回（毎月）、随時 5 回

#### (2) 事業説明

はつかいち生活支援センターの機能やサービス内容について、民生委員児童委員協議会等で説明した。

#### (3) 企業開拓・相談

面談日	相手先	件数
5/27	高木工業（株）、第一交通産業（株）	9 件
6/12	富士企業（株）	
7/26	エコサポート（株）	
8/13	ファステ	
9/18	青少年ワークサポート	
10/17	（株）ホットスタッフ五日市	
11/8	（有）メディカルサービス	
12/6	（有）坂井屋	

#### (4) 研修会等

開催日	内 容	回数	職員人数
6/12	生活保護受給者等就労自立促進事業（ハロー・ワーク廿日市主催）	1回	1人
11/3～4	生活困窮者自立支援事業全国大会（宮城県）	1回	1人
1/31	生活困窮者中国・四国ブロック研修（岡山県）	1回	3人

(5) 広報啓発

はつかいち市民図書館で貧困に関わる図書の展示、あいプラザまつりで啓発に努めた。

## 5 生活困窮者家計相談支援事業 (市委託 3,842千円)

生活困窮者の家計の自立に向け、相談者の家計の状況の「見える化」を行い、本人の経済的自立への意欲を引き出し、アセスメント（家計診断）、家計支援計画の作成（支援の提案）、家計表等の活用や出納管理を通じて家計収支の均衡を図り、家計管理能力を高めるために必要な支援の調整を実施した。

(1) 活動実績及び件数

項 目	件 数
新規相談受付	243 件（自立相談を含む）
自立支援計画作成	29 件（再作成含む）
自立支援計画評価	6 件

(2) 必要に応じて生活資金貸付のあっせん

生活福祉資金、緊急生活安定資金等の貸付を併用しながら生活困窮者の自立に向けた支援を行なった。（実績についてはそれぞれの事業で報告）

(3) 他の支援機関へのつなぎ

法テラス、クレジットカウンセリング協会への同行により、債務整理の支援を行なった。

## 6 生活困窮世帯の子どもの学習支援事業 (市委託 2,874千円)

生活困窮者及び生活保護世帯の「貧困の連鎖」を防止する観点から、生活困窮家庭の子どもへの学習支援や仲間と出会い活動できる居場所づくり、学習の重要性について、保護者の理解の促進などの支援を行なった。

(1) 相談件数

項 目	件 数
相談受付	16 人（小学校 4 人 中学校 9 人 高校 3 人）
実支援数	15 人（小学校 1 人 中学校 10 人 高校 4 人）

(2) 支援件数

項 目	件数（延べ）
学習支援	207 件
学習相談（親へのアプローチ）	97 件
他機関との連携（SSW・学校等）	201 件
ケース会議	11 件

(3) 学習支援体制の構築

ア 学習支援ボランティアの手引の作成

イ 事業周知のための大学訪問

廿日市市、広島市にある大学を訪問し、事業説明を行なった。

（訪問大学：日本赤十字広島看護大学、広島修道大学、広島工業大学、山陽女子短期大学、

安田女子大学、広島女学院大学、比治山大学、広島文化学園大学、広島文教大学)

#### ウ 学習支援ボランティア研修の実施

開催日	内 容	登録ボランティア数
12/18	ボランティア経験談	25人
1/14	不登校と発達障がい	

#### (4) アウトリーチ

中学3年生・高校1年生の子どもがいる生活保護世帯への郵送による調査（9月初旬）を行なった。

学習支援マップを改訂した。

#### (5) ネットワークの構築等

各種会議等に出席し、事業説明を行い、対象になる子どもたちの早期発見と連携に努めた。

開催日	内 容
5/14	生活福祉課での事業説明
7/10	SSW会議での事業説明
8/26	教頭会での事業説明
9/6	子育て応援室での事業説明
9/9	校長会での事業説明

#### (6) 先進地への訪問研修の実施

個別型・集合型の両方を行なっている福山市へ訪問し（8/21）、事業内容についての聞き取りと、実際に集合型で実施している学習支援の場に参加した。

### 7 生活困窮者支援体制推進事業（新規）（市委託 6,722千円 共募 250千円）

生活困窮者の生活改善や就労支援等、相談者一人ひとりに合わせた支援を強化すると共に、個別の相談によって把握した地域課題の蓄積を基に、支援が必要な人の社会的孤立の防止と早期発見や自立支援のためのネットワーク等の取組みを推進した。

#### (1) 就労支援

はつかいち生活支援センターの相談者に対し雇用や就労体験の実施先として協力企業の開拓を行なった。また、自立相談支援において、就労支援を充実させるため、無料職業紹介事業の許可申請を令和2年2月に行い、令和2年5月から事業を開始することとなった。

項目	実績
就労体験（現場での仕事体験）	6件
企業見学（企業説明と見学）	11件

#### (2) 居住支援

一時生活支援事業を充実させるため、自立相談支援事業利用者の受け入れ先の開拓を行なった。また、市内における住居確保要配慮者に対する支援について、県、市の関係部署、民間企業との連携を図るため、居住支援会議に参加し、今後の方向性について協議した。

項目	実績
一時生活支援事業実施機関の開拓	2件
居住支援会議	2回
研修等への参加	3回

#### (3) 相談支援体制

就労や居住、緊急支援物資の受け入れ等、これまで連携を図ってきた関係機関以外の相談支援体制については、大きな進展が見られなかつたが、相談者の生活における協力先（携

帯電話の契約、自動車の売却、新たな法律相談事務所）を開拓することができた。

項目	実績
携帯電話の契約	1件
自動車の売却	1件
法律相談事務所	2件

(4) 緊急支援物資

一般社団法人日本非常食推進機構とフードバンク事業に関する覚書を交わし、定期的に食糧の提供を受けた。その他、廿日市市消防局や民間企業、一般市民から食糧や飲料水などの提供を受けた。

項目	実績
食糧提供機関の開拓	3件
食糧受領延べ回数（一般市民）	36回
食糧受領延べ回数（関係機関）	17回（3団体）

(5) 広報啓発

関係機関に対し自立相談支援事業と合わせて、本事業の説明を行なった

## 8 福祉サービス利用援助事業（県社協委託、事業収入 10,229千円）

日常生活において判断能力が不十分で不安のある人が安心して地域生活ができるよう権利擁護を目的に福祉サービス利用援助、日常的金銭管理のお手伝い、重要書類等預かりサービスを実施した。

また、普及啓発のため、医療機関、地域包括支援センター、福祉施設及び民生委員児童委員、地域のつどい・サロン等への周知に努めた。

(1) 実施状況

ア 契約状況

新規相談：101件（内、契約20件）

イ 地域別実利用人数

廿日市	佐伯	吉和	大野	宮島	計
72人	16人	1人	27人	4人	118人

ウ 事業開始（平成11年）からの累計契約件数

認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	計
163件	40件	85件	31件	319件

エ 訪問、窓口、電話等による相談・調整・支援件数

認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	計
2,250件	1,698件	2,814件	1,694件	8,456件

(2) 生活支援員の確保・研修の実施

ア 活動実施体制の充実

生活支援員が担当しているケースについては隨時、情報共有、支援方針を検討する等、協議や連絡調整を重ねることで相互の信頼関係の構築と資質の向上に努めた。

イ 生活支援員登録人数（地域別）

廿日市	佐伯	吉和	大野	宮島	計
24人	3人	1人	8人	0人	39人

ウ 生活支援員の資質向上のための研修会開催（年1回）

開催日	内 容	参加者
第1回 4/23	【報告】本事業の事業報告 【講演】テーマ：精神保健医療福祉施策の動向・精神障がい者との関わり方について 講 師：医療法人社団友和会 串戸心療クリニック 精神保健福祉士 岩田 卓郎 さん	17人
エ 生活支援員を養成するための研修会開催（年3回）		
開催日	内 容	参加者
第1回 8/22	【講演】テーマ：対人援助技術（傾聴等） 講 師：広島文教大学 人間科学部 人間福祉学科 教授 中村 卓治 さん 【活動紹介】	25人
第2回 8/26	【講演】テーマ：福祉サービス利用援助事業「かけはし」の概要 講 師：広島県社会福祉協議会 生活支援課 あんしんサポートセンターかけはし 南 裕美 さん テーマ：知的障がいの症状・特性等の基礎知識 講 師：廿日市市障がい福祉相談センターきらりあ 相談支援専門員 平原 梨沙 さん テーマ：精神障がいの症状・特性等の基礎知識 講 師：廿日市市障がい福祉相談センターきらりあ 相談支援専門員 今田 聰 さん	24人
第3回 9/3	【講演】テーマ：認知症の症状・特性等の基礎知識 ～認知症の理解と対応について～ 講 師：地域包括支援センターはつかいち グループリーダー 森崎 明子 さん テーマ：ソーシャルワーク（社会福祉援助）の基礎 講 師：廿日市市社会福祉協議会 会長 蟹江 紀雄	27人

(3) 関係機関との連携強化

ア 福祉サービス利用援助事業運営連絡会議

広島弁護士会、リーガルサポートひろしま（広島司法書士会）、廿日市金融機関懇話会、県西部厚生環境事務所、市福祉総務課、地域包括支援センター、障がい福祉相談センターきらりあ、民生委員児童委員協議会、県社協等による運営連絡会議の開催について、3月19日の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。

イ ケース会議等の開催

複合的課題を抱えている世帯や社会的孤立状態にある人など、対応に苦慮するケースについて、本人が置かれている状況等を関係機関（地域包括支援センター、市行政関連部署、福祉施設、医療機関、民生委員児童委員等）で情報共有し、支援方針、役割分担等について協議するとともに、ネットワークの構築に努めた。また、さまざまなケースをとおして、関係機関と連携して支援を行い協力体制の強化に努めた。

(4) 組織内の連携強化及び担当職員の資質の向上

ア 福祉サービス利用援助事業の専門員及び担当職員を複数配置し、支援体制の強化、組織内の担当職員による会議の開催や情報共有等、連携して事業実施した。

イ 会議等開催、参加状況

主催	運営連絡会議	0回	ケース会議等	53回
	生活支援員研修会	1回	生活支援員養成研修	3回
	社協内担当者会議	1回		
参加	専門員連絡会議（1回）	1人	専門員研修会	0人
	成年後見制度推進団体連絡会議	0人	中国ブロック専門員研修	2人
	専門員実践力強化研修Ⅰ	0人	専門員実践力強化研修Ⅱ	0人

中国ブロック専門員研修を受講し、事例検討をもとに、利用者への関わり方や社会資源との連携について学び、専門員としての視点や知識・技術を学んだ。

#### (5) 事業の周知

地域のつどい・サロンや、外部団体主催の研修会での出前講座等を通じ、事業の周知に努めた。

大野地域の地域ケア会議(11/27)に参加し、本事業の周知に努めた。(参加者 28人)

#### [令和元年度重点的に取り組む事項]

- ・本事業における事例検討会を行い、職員の資質向上や適正な支援体制づくりに取り組む。  
→所内会議で困難事例を共有し検討した。
- ・安心してもらえる支援を継続的に行なっていくため、利用者からの預かり物や個人情報等の取扱いについて、職員研修の実施や所内手続きの改善等を行い、管理体制の強化に取り組む。  
→払戻・支払依頼書の様式を変更し、内部けん制の強化に努めた。  
→個別ケースファイルと預かり物の管理体制を見直し、業務の効率化・利用者の個人情報の管理強化に努めた。(大野)

## 9 法人後見事業(自主 1,659千円)

認知症、知的障がい及び精神障がい等の理由で判断能力が不十分な人が地域で安心して暮らし続けられるよう、本会が法人として成年後見人等を受任し、必要な支援、調整等を行い、誰もが安心して日常生活を送ることができる地域づくりに取り組んだ。

#### (1) 関係機関との連携強化

成年後見人等の権利擁護のため、弁護士、司法書士、社会福祉士等の職能団体及び行政等とのさらなるネットワーク強化と適正運営を図ることを目的とした、法人後見事業運営委員会の開催を予定(3/19)していたが新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。

#### (2) 組織内の連携強化及び担当職員の資質の向上

厚労省や県社協主催の研修及び家事関係機関との連絡協議会等に出席し、動向の把握、担当職員の資質向上に努めた。

さらに法人後見事業相談会を開催し、担当職員が抱える悩みや課題の解決を図った。

#### (3) ニーズの掘り起こし

福祉サービス利用援助事業(かけはし)契約者の中で、成年後見制度の活用が必要な人を所内会議で検討し、申立てにつなげた。

#### (4) 実施状況

ア 年度末における受任ケースの内訳 ( ) 内は事業開始(平成11年)からの累計

認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	計
5人(9人)	2人(3人)	2人(4人)	9人(16人)

※ 全て後見類型

イ 訪問、窓口、電話等による相談・調整・支援件数 ( ) 内は前年度実績

認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	計
224回(30回)	153回(74回)	145回(32回)	522回(136回)

ウ 受任等件数

項目	件数	項目	件数
候補依頼受付	3件	候補承諾	3件
申立	3件	新規受任	3件
報酬付与申し立て	7件	終了	1件

エ 意識啓発・広報

NPO法人や外部団体主催の研修会等での事業説明をとおして、事業実施について周知すると共に、権利擁護について意識啓発を行なった。

開催日	内 容	出席者
4/28	【福祉サービス消費者教室】 社会福祉協議会の権利擁護の取組 説明者：市社協かけはし担当職員	15人

オ 後見支援員の育成

新規受任ケースに対し、後見支援員の新規委嘱（1人）を行なった。

活動人数：2人

活動状況：対象者2人に対し、延べ19回の支援にあたった。

[令和元年度重点的に取り組む事項]

- ・安定して事業を運営できるよう、事務局職員及び後見支援員の資質向上に努める。  
→法人後見事業相談会を開催し、担当職員が抱える悩みや課題の解決を図った。
- ・安全に後見事務を遂行できるように財産管理及び各種手続き等における業務の標準化、マニュアル作成に取り組む。  
→最高裁から後見等開始申立書等の統一書式が示され、令和2年4月からの運用となることに伴い、その準備を進めた。
- ・市担当課や家庭裁判所等と廿日市市における成年後見制度利用促進法における事業展開を考えていくため、協議を重ねていく。  
→家事関係機関との連絡協議会などで意見交換等をしたが、引き続き関係機関と協議を進める。

## 10 生活福祉資金貸付事業 (県社協委託 2,239千円)

低所得者・障がい者・高齢者等に対して、資金の貸付けと民生委員による必要な援助指導を行うことにより、経済的自立及び生活意欲の向上、促進を図り、生活の自立と安定に向けた支援を県社協と共に実行なった。

また、日常生活全般に困難を抱えた失業者等に対して、生活の立て直しのためはつかいち生活支援センターによる継続的な相談支援と償還に向けた支援プランを作成し自立のための支援を行なった。

- (1) 償還につながるよう借受人、連帯借受人、連帯保証人に対し、民生委員児童委員と連携し、状況の把握に努めた。
- (2) 県社協からの送付文書により残額の通知、滞納者に対する償還督促を行なった。

**【貸付実績】 ( ) 内は前年度実績**

申請等実績	相談件数	申請件数
生活福祉資金	166 件 (156 件)	25 件 (22 件)

**1.1 緊急生活安定資金貸付事業 (自主 399千円)**

緊急に生計の維持が困難になった世帯に対し生活費を貸し付けることにより、経済的自立及び生活の安定を目指した支援を行なった。また必要に応じて、地域包括支援センター等から意見を聴取し、自立に必要な相談支援を行なった。

**【貸付実績】 ( ) 内は前年度実績**

件数	金額
13 件 (26 件)	413,000 円 (1,083,000 円)

**[廿日市・佐伯・吉和地域]**

**1.2 障がい児者指定居宅介護等事業 (自主・廿日市・佐伯・吉和 24,385千円)**

障がい児者の自己決定を尊重し、地域で安心して暮らせるよう支援を行なった。

**(1) 訪問介護員の派遣**

在宅障がい児者世帯に対する訪問介護員の派遣を行なった。

**ア サービス利用時間数**

( ) 内は前年度実績

身体介護	家事援助	移動〔視覚〕	移動〔知的〕	移動〔全身性〕
3,048 時間	79 時間	0 時間	5,997.5 時間	1,852 時間
(3,185.5 時間)	(126.5 時間)	(0.0 時間)	(6140.0 時間)	(1,563.5 時間)

**イ 契約者数**

( ) 内は前年度実績

区分	児童	知的障がい者	身体障がい者
契約者数	11 人 (10 人)	91 人 (91 人)	25 人 (23 人)

**ウ ヘルパー数**

( ) 内は前年度実績

サービス提供責任者	1 人 (1 人)
登録ホームヘルパー	80 人 (75 人)
視覚障がい者ガイドヘルパー	53 人 (62 人)
知的障がい者ガイドヘルパー	35 人 (42 人)
全身性障がい者ガイドヘルパー	69 人 (78 人)

**(2) 研修の実施**

開催日	内 容	参加者
6/17	廿日市消防署による救命講習	20 人
11/14	腰痛予防研修	40 人
1/16	個人情報とプライバシーについて研修会	30 人
2/23	ヘルパー勉強会	15 人

**(3) 関係機関との連携**

**ア 請求事務**

行政や他事業所と連携し請求事務を行なった。

**イ 担当者会議への出席**

担当者会議に出席し、相談支援業務への協力に努めた。

#### ウ 他事業所との連携

事業所の閉鎖にともない、支援を必要としている利用者と契約し支援を行なった。

[令和元年度重点的に取り組む事項]

- ・支援の問題点を抽出し、改善に努める。  
→利用者の情況を把握し、より安全に支援の機会が増えるように体制を整えた。
- ・各事務所（廿日市・佐伯・吉和）間で連携し、ニーズに合った支援を行う。  
→佐伯地域で対応できない支援を廿日市地域のガイドヘルパーを派遣し、支援した。

## 基本目標（5） 多様な主体の強みを生かした 新しい支えあいを育てます

災害時の生活支援をキーワードに、さまざまな団体との連携強化に努めた。市内での団体に活動助成を行い、つながる中での新たな取組みを創出した。

### 1 災害救援事業（共募・市補助 98千円）

災害時の生活支援をキーワードに、さまざまな団体との連携強化に努めた。市内での団体に活動助成を行い、つながる中での新たな取組みを創出した。

#### (1) 「甘日市市被災者生活サポートボラネット」推進会議の開催及び運営

開催日	内 容	参加者
7/26	・今年度の取り組みについて ・災害時に自らの機関・団体が災害ボランティアに協力できること、他の団体に期待することをグループワークで検討	16人
12/23	・マニュアルの改訂についての説明 ・研修会についての意見の聴取	13人

#### (2) 講演会（研修会）の開催

今年度は災害ボランティアセンター運営シミュレーションと同時開催した。

開催日	内 容	参加者
2/15	講演：「被災者生活サポートボランティアセンターの役割・機能」 講師：竹田市社会福祉協議会 水野 匡也 さん 体験：被災者生活サポートボランティアセンターの運営の実際	52人

#### (3) 市域での災害ボランティアセンター運営シミュレーション及び各地域での防災講座等の開催

#### (4) メールによる情報伝達の仕組みづくり（新規）

関係諸機関へのメールの試験送信を行なった。（3/17）

#### (5) 被災市町における活動支援

大きな災害がなかったため、他市町の支援活動はなかったが、7月21日に市内で起こった避難指示への対応を行なった。

#### (6) 他市町との広域的な連携の強化

大竹市災害ボランティアセンター運営シミュレーション研修（9/28）に参加した。

他団体との連携としては、ボランティア吉和の研修、宮園自主防災研修、はつかいち災害ボランティアネットワーク赤十字奉仕団の研修に参加した。

#### (7) さっそくネットへの参画（新規）

市内の社会福祉法人で結成する、災害時の相互互助組織「さっそくネット」の会議に出席した。

#### (8) 豪雪地域指定市町社協の合同勉強会への参加

雪処理の扱い手確保・育成に向けての学習会に参加した。（11/29）

#### [令和元年度重点的に取り組む事項]

- ・防災講座等の開催について、市内の災害支援関連組織と協働して実施する。  
→シミュレーションには、大竹市社協、安芸太田町社協、北広島町社協等の参画に

による研修が実施できた。

- ・被災地での活動支援にあたったボランティアネットワークを構築し、経験を蓄積するとともに、継続的な活動につなげる。  
→大きな災害がなかったため、ネットワーク内の継続的な活動には至らなかつたが、廿日市市被災者生活サポートボラネットの推進会議に個人での参画につながった。

## 2 福祉人材育成事業（自主・県社協助成 1,136 千円）

### (1) キャリアスタートウィーク（中学生）の受入れ

地域福祉課で、廿日市中学校 2 年生 3 人を受入れた。

### (2) 社会福祉士受験にかかる社会福祉援助技術実習の受入れ

社会福祉士等の国家資格取得に対する実習生を受入れた。

機関等	時間	人数
広島福祉専門学校	180 時間	5 人

### (3) 廿日市市福祉・介護人材確保等総合支援協議会の開催

【構成団体】老人福祉施設連絡協議会、訪問介護事業所連絡会（障がい部門）、ハローワーク、県担当課、市関連部署、県社協、市社協

ア 代表者会議の開催（年 2 回：5/30・2/2）

イ PR イベント実施のためのプロジェクトワーキングの開催（年 3 回：6/17・7/22・10/4）

ウ 人材育成システム構築のためのプロジェクトワーキングの開催（年 2 回：12/12・2/6）

エ 全体協議会「ふくしの魅力を語ろう会」の開催

廿日市市と大竹市の福祉現場で働く仲間が集い、福祉のやりがいや魅力について語り合う「福祉の魅力を語ろう会」の開催（1/12・45 人）

オ 社会福祉法人部会の開催（7/4）

カ 情報発信活動

コミュニティ FM 「FM はつかいち」を利用し、関連行事の周知及び福祉現場における取組みややりがい等について、月 2 回発信した。

### (4) 福祉施設職員相互研修事業の企画・実施

市内の福祉施設に勤務する職員（延べ 2 人）が、他施設で 1 ~ 2 日間を過ごし、情報交換や交流及び研鑽を積んだ。

期間	参加施設：18 施設・事業所
10 月～ 3 月	（廿日市地域）生活介護事業所くさのみ作業所、生活介護事業所ピクトハウス、就労継続支援 B 型さくら作業所、デイサービスセンター第 2 清鈴園、就労継続支援 B 型コーヒーショップあんず、放課後等デイサービスこどもひろば ういす、特別養護老人ホーム四季が丘せせらぎ園、特別養護老人ホーム阿品清鈴、リハビリ特化型デイサービスかえる＋ チェンジ （佐伯地域）生活介護事業所友和の里、就労継続支援 B 型にじのえき、相談支援事業所あおぞら （大野地域）大野ふれあい生活介護事業所、介護老人保健施設べにまんさんの里、グループホーム ラ・メール大野、児童養護施設丸石こどもの家、特別養護老人ホーム洗心園、障害福祉サービス事業所なづな

### 3 日本赤十字社活動資金募集協力事業 (日赤1,365千円)

赤十字事業の趣旨及び必要性の周知を行い、活動資金を募集した。5月を活動資金募集運動月間として、目標額14,231,000円に対し達成率は72.0%（前年度74.7%）となった。

また、火災などの災害に対し救援物資を送付するとともに、国内外で発生した台風・地震・大雨などの大規模災害への義援金・救援金募集及び周知を行なった。

- ・日赤活動資金募集実績 ( ) 内は前年度実績

活動資金実績額
10,240,846円 (10,633,792円)

### 4 共同募金運動協力事業

共同募金が民間福祉活動を支える重要な財源であるという趣旨の周知徹底を図り、赤い羽根共同募金運動、歳末たすけあい運動、地域テーマ募金活動を展開した。

目標額 13,912,000円に対し、達成率は95.8%（前年度：100.8%）だった。

- (1) 赤い羽根共同募金運動、歳末たすけあい運動、地域テーマ募金実施（10月～3月）

(単位：円)

	廿日市	佐伯	吉和	大野	宮島
戸別募金	3,969,684	1,067,000	183,700	2,498,550	203,500
街頭募金	24,940	0	0	0	43,094
法人募金	201,000	71,500	114,000	146,000	7,809
学校募金	24,518	14,263	0	4,850	0
職域募金	199,201	700	39,408	119,300	28,946
イベント募金	38,809	22,963	0	5,400	0
その他募金	224,287	133,418	36,480	26,700	149,297
歳末募金	0	1,058,000	0	2,474,150	198,900
合計	4,682,439	2,367,844	373,588	5,274,950	631,546

総計 13,330,367円 (前年度 13,976,175円)

- (2) 地区別地域福祉推進会議でのPRの実施
- (3) 共同募金委員会運営委員会、審査委員会の開催

### 5 福祉団体等支援事業 (自主・共募・市補助 3,231千円)

福祉団体が実施する福祉事業に対し、活動に対する助成を行うことにより住民福祉活動及び自主運営の促進に努めた。

- (1) 福祉団体へ助成金の交付

ア 全域

(単位：円)

廿日市市老人クラブ連合会	100,000	福祉教育活動費助成（市内の各小・中学校対象）	540,000
--------------	---------	------------------------	---------

イ 廿日市地域

(単位：円)

社会福祉法人くさのみ福祉会	50,000	重度障害児者のつどい「ジョイフル」	120,000
---------------	--------	-------------------	---------

虹の会	10,000	廿日市市民生委員児童委員協議会	100,000
ささえ愛ネット廿日市支部	265,000		

ウ 佐伯地域 (単位：円)

機能訓練会「あけぼの会」	30,000	精神障害者家族会「こぶし会」	30,000
ボランティアグループ 「ひまわり会」	50,000	さいき障がい児と親の会 「みかん」	20,000
在宅介護者の会 「リフレッシュクラブ」	20,000	心と心のハーモニーフェスタ 実行委員会	933,000
わんぱく旅行実行委員会	170,000	コミュニティ活動支援 (玖島・友和・津田四和・浅原)	236,000
精神障害者サロン 「ちゅうりっぷの会」	20,000		

エ 吉和地域 (単位：円)

ボランティア吉和 (ささえ愛ネットはつかいち吉和支部)	5,000
-----------------------------	-------

オ 大野地域 (単位：円)

大野ボランティア連絡協議会 (ささえ愛ネットはつかいち 大野支部)	154,000	大野障がい者団体連絡協議会	80,000
大野こどもクラブ「ビッグ・ フィールド大野隊」	30,000		

カ 宮島地域 (単位：円)

宮島町食生活改善推進協議会	20,000	地域ふれあいフェスタ実行委員会	148,337
---------------	--------	-----------------	---------

## (2) 福祉関係団体事務支援事業

福祉関係団体の事務や事業の支援を通して自立運営を支援した。

ア 吉和地域：老人クラブ・障害者福祉協会

イ 宮島地域：老人クラブ・障害者福祉協会・宮島町遺族会

## 【廿日市地域】

### 基本目標（1） 社会参加や役割発揮のための人づくり参加の入口づくりを進めます

#### 1 ボランティアセンター活動推進事業（自主・共募 42千円）

福祉活動の担い手であるボランティアの活動が円滑に進められるよう、また、子どもたちが地域に目を向け、心の通うまちづくりにつながるよう、市内の小・中学校等が取組む福祉教育活動を支援し、学校と地域との連携を図り、ボランティア活動の推進に努めた。

##### （1）計画的なボランティア活動推進体制の整備

小中高校・特別支援学校の体験学習（施設見学の際のボランティア説明）の受入れ

開催日	対象者	人数
6/6	廿日市小学校 4年生	127人

ささえ愛ネット廿日市の協力を得て、小中学校のボランティア体験学習を実施

開催日	内 容	対 象
6/18	点訳体験（点訳グループあい）	宮島小学校
7/1	手話、点字、車いす体験（阿品台手話、点訳あい、飛来行）	地御前小学校
8/23	車いす体験（飛来行）	廿日市中学校
12/17	手話体験（レインボー）	宮園小学校

##### （2）個人ボランティアに対する積極的な情報と、活動の場の提供

福祉活動の担い手であるボランティアの活動が円滑に進められるよう次の支援を行なった。

新規ボランティア登録者	47人
ボランティアマッチング回数	9回

##### （3）応援会議（近隣大学の学生と教職員等との連携による若い世代の担い手づくり）の実施

###### ア 応援会議の開催

開催日	内 容
4/24	遊びの教室への参画について
6/5	遊びの教室への参画について
12/26	学生ボランティア講座の振り返り、次年度の取り組みについて

###### イ 学生のためのボランティア入門講座の開催

開催日	内 容	参加者
7/10	障害のある子どもの理解と関わり方	39人
12/26	1 子どもたちと触れ合おう！ 協力機関：非営利法人 キッズNPO 2 地域の人と交流しよう！ 協力団体：健康サロンあゆみ 3 聴こえないってどういうこと？ 協力団体：廿日市市要約筆記サークル やじろべえ HPC 小富士 4 正月飾りを作ろう！ 講師：鶴原 富夫 さん	10人

###### ウ 大学との連携強化（新規）

大学と地域が協働で活動できる場づくりのため、大学への聞き取りを行なった。

訪問日	訪問大学
4/11	日本赤十字広島看護大学
2/13	山陽女子短期大学
2/18	日本赤十字広島看護大学

エ ボランティア出張講座の開催（令和元年度は依頼がなかったため実施なし）

(4) 他事業と連携したボランティア育成

ア 遊びの教室へのボランティア調整

イ サロンへのボランティア調整

(5) ささえ愛ネットはつかいち廿日市支部の活動支援

ささえ愛ネットはつかいち廿日市支部に活動助成金を交付し、活動の促進に寄与した。

総会・役員会・定例会へ事務局として参加した。

(6) 地域の福祉まつりへのボランティア参加の支援

開催日	内 容	参加者
7/6	障がい者スポーツフェスティバル	7人
8/31	第31回 くさのみまつり	7人
11/3	あいプラザまつり	15人

[令和元年度重点的に取り組む事項]

・ボランティア活動者の掘り起こしと、多様な活動場所の創造

→個人ボランティアの登録が47人あり、ボランティアマッチングを9回行なった。

令和2年度も引き続き活動場所の創造をすすめ、学生ボランティアについては、廿日市市域での活動場所をマッチングできるようにする。

## 2 遊びの教室事業（廿日市 自主・共募93千円）

長期休暇中の在宅障がい児に家庭だけでは体験できない豊かな経験の場、学校の枠を超えた交流の場を提供するとともに、家族の負担軽減を目的として、夏休みに4回（大野地域で1回）実施した。冬休みについては、参加者とボランティアとの調整が難しかったため、開催に至らなかった。

多くの民生委員児童委員や学生ボランティアに関わってもらい、継続して参加するボランティアが学生も含めて増えてきた。また毎回楽しみにしている子どもたちが多く、学生ボランティアの活動のきっかけづくりになっている。また、ボランティアセンターと連携することで、事前に障がいのある人についての学習会を実施し、より理解を深めることができた。

(1) イベント開催

開催日	内 容	場 所	参加者 (子ども)	V.O.スタッフ (職員含む)
7/31	・障がい者スポーツ ・ポップコーンづくり ・DVD鑑賞	大野福祉保健センター	5人	18人
8/4	・カレー作り ・DVD鑑賞/レクグッズ遊び	廿日市市総合健康福祉センター (山崎本社みんなのあいプラザ)	7人	17人
8/8	・もみじ饅頭/杓子づくり	みやじまん工房	9人	21人
8/20	・子ども喫茶	廿日市市総合健康福祉センター (山崎本社みんなのあいプラザ)	6人	25人

(2) 学習会

開催日	内 容	参加者
7/10	障がいのある子どもの理解と関わり方	39人

[令和元年度重点的に取り組む事項]

- ・大野地域での開催や、市全域からの参加を可能とし、より多くの子どもの社会参加の機会を確保する。  
→夏休みに4回開催のうち、1回は大野地域で行なった。また、より多くの子どもたちに周知できるよう、特別支援学校、市全域の小中学校の特別支援学級のみでなく通級にもチラシを配布した。
- ・イベントの企画段階からボランティアに参画してもらい、障がいに対する理解をより深めてもらうような働きかけを行う。  
→イベントの一部分を企画段階から関わってもらうことで、事前のボランティアへの福祉教育の場を設けることへつながり、障がいのある人たちへの理解を深めた上で参加してもらえた。

3 精神保健福祉事業 (廿日市 共募 23千円)

(1) 精神保健福祉ボランティアグループ「ねこの手」の活動支援 夕食会への支援

社協職員への案内 8回	参加延べ人数 37人
-------------	------------

(2) はつかいち福祉ねっと精神障がい部会への参加 年12回参加

(3) 精神保健福祉に関する社会資源一覧の更新 令和2年度に更新予定

(4) 精神保健福祉勉強会の開催

開催日	内 容	参加者
8/22	対人援助技術（傾聴等） 講師：広島文教大学 教授 中村 卓治 さん	25人
9/13	心の病と地域での生活について 講師：医療法人社団 友和会 エスペランサ 相談支援専門員 宮地 秀樹 さん 精神障がい者への支援について 講師：廿日市市 障害福祉課 自立支援 GL 門田 万紀恵 さん ボランティア活動について 講師：精神保健福祉ボランティアグループ 「ねこの手」 代表 佐々木 菊江 さん	26人

(5) 令和元年度広島西圏域精神障害者地域政策支援部会に参加

4 地域のつどい・サロン支援事業 (自主・共募・県社協補助 972千円)

地域住民が自主運営する拠点(つどい・サロン)を地域に根付いた活動となるよう、支援を行なった。

(1) 世話人の情報共有・不安解消のため交流会の実施

ア サロン世話人のためのおしゃべりサロンの開催(2回)

サロン活動の充実と、世話人同士で悩みや喜びを共有することを目的に、サロン世話人を対象とした交流会を実施した。世話人同士の横のつながりができただけでなく、新

規立ち上げサロンや新任世話人への情報提供を行なった。

イ サロン見学(1回 11/17 参加者 17人)

他市町のサロンの取組みを見学し、自分たちのサロンについて考える機会を設けた。

(2) 地域住民へのサロン紹介・取次ぎ等を行なった。

・各種相談対応 (19件)

・ボランティア行事用保険、活動保険の案内

(3) 地域のつどい・サロン支援助成金の交付 (高齢者サロン以外) 0件

(4) 小地域のお茶の間づくり事業の推進 (県社協委託事業)

県社協が実施するお茶の間サロンの指定を終了しているサロンについて、継続して支援を行なった。

(5) レクリエーション用品の貸出 (87件)

(6) 計画的なサロン訪問によるニーズの把握 22ヶ所 (計27回)

(7) サロンマップ等の作成

・おしゃべりサロンNEWS発行 (4回)

・市社協ホームページ掲載

・市社協広報紙「あいとぴあ」記事掲載

## 5 あいプラザまつり (廿日市 自主・共募 268千円)

市民みんなのまつりとして、開催準備に関わる市民を増やすなど、参加団体同士が出会い、知り合えるための機会づくりに努めた。また「生涯学習フェスティバル」と同日開催した。

開催日	会場	来場者	ボランティア
11/3	あいプラザ及び新宮中央公園	約5,600人	382人

(1) 社協活動事業の紹介

社協が実施している事業を紹介するとともに、賛助会員の募集を行なった。

(2) 世代間交流の促進

ボランティア体験コーナーやパネル展示等でボランティア活動やサロンの紹介を行なった。今年度は平良小学校の児童による無料喫茶コーナーの実施なし。

(3) ボランティア活動の機会の提供

市内福祉団体がバザー出店することで市民に団体を紹介し、つながりを深めた。作業所メンバーがボランティアコーナー、バザーコーナーで交流することで、「ちょっと知り合う」体験を行なった。

(4) 街頭募金活動

廿日市小学校の児童、廿日市地区共同募金委員会運営委員による赤い羽根共同募金街頭募金活動を実施した。

(5) 参加団体との協議、情報共有の場づくり

参加団体で構成する「3部門企画会議」を開催し、実施内容の充実に向けた協議や情報の共有を行なった。(8/19)

バザーの参加団体の参画により、バザーパート会を実施した。(9/20)

(6) 合同スタンプラリー

社協と市健康推進課(あいプラザ館内)の合同スタンプラリーを実施した。

(7) 障がいのある人への社会参加の機会の提供

ア あいプラザまつりの準備及び当日の運営、障がい児・者が参加する機会を提供した。

イ あいプラザまつり当日に、社会体験チャレンジとして障がいのある人が、他のバザーブースでお手伝いをすることで、交流を図った。(受入れ: 3団体 参加者: 8人)

## **基本目標（2） 組織（主体）の意識や活動を進化させます**

### **1 小地域ネットワーク事業（自主・共募 299千円）**

地域の福祉課題は地域で解決できる体制を確立していくために、さまざまな地域の取組みのバックアップをした。

#### **(1) 地区福祉部会（地区社会福祉協議会やコミュニティ推進協議会の福祉部会等）への事務局活動費助成**

- ・計 6 件助成

佐方アイラブ自治会、平良地区コミュニティ、四季が丘地区社会福祉協議会、宮園地区社会福祉協議会、廿日市地区まちづくり協議会、原地区コミュニティ推進協議会

#### **(2) 地域住民の福祉に関する意識向上に向けての取組み**

地域福祉推進団体の総会、勉強会などで市社協事業等の取組み説明や福祉ニーズの聞き取りなどを行い、各種事業の周知、地域住民の福祉に関する意識向上に努めた。

開催日	開催地区	開催場所	内 容	参加者
4/24	佐方地区	佐方市民センター	佐方アイラブ自治会合同勉強会 「通いの場への理解促進」	50 人
6/15	宮園地区	宮園市民センター	地区社協福祉委員勉強会「地域 包括ケアシステムについて」	20 人
12/12	原地区	原市民センター	見守りネットワーク勉強会	34 人

#### [令和元年度年度重点的に取り組む事項]

- ・1 1 地区のアセスメントの実施。  
→1 1 地区のアセスメントシートを作成した。今後は内容を更に充実させていく。
- ・第 3 層協議体未設置地区への地域組織化の支援。  
→原地区において「原お互いさまネット」の立上げ支援を行なった。

## **基本目標（4） 社会的孤立を見逃さないための仕組みづくりを進めます**

### **1 不登校・ひきこもり支援事業（廿日市 自主・共募 326千円）**

生きづらさを抱える人たち、その家族が安心して過ごせ、社会とつながることができるよう、不登校やひきこもりに対して理解ある地域づくり、社会とつながるきっかけづくりを開催した。

#### **(1) 親の会の開催**

不登校・ひきこもりの子どもや若者の家族が相談できる場である「親の会」を継続的に開催した。12月、1月はミニ DVD 上映会を企画した。

11回開催（毎月第4日曜日） 延べ参加者 52 人（昨年度 70 人）

#### **(2) 居場所の開催**

安心して自由な時間を過ごしてもらい、元気を取り戻してもらうことを目的として、「不登校・ひきこもりの子どもの居場所、ひきこもりの若者のサロン」を、毎週火曜日に開催した。第二火曜日は、自立への一歩としてクッキングの日とし、簡単にできる調理を行なった。

毎週火曜日開催 延べ参加者数 182 人（昨年度 194 人）

延べボランティア参加者 73 人（昨年度 85 人）

(3) 講演会・学習会の開催

ア 講演会

地域へ、不登校やひきこもりについて正しく理解をしてもらうため、講演会を開催した。

開催日	内 容	開催場所	参加者
8/17	いま、ひきこもりを考える ～ひきこもる青年たちから教えられたこと～ 講師：宇部フロンティア大学 教授 西村 秀明 さん	廿日市市総合健康福祉センター (山崎本社みんなのあいプラザ)	76人

イ 学習会（新規）

ひきこもり支援の充実のため、支援者の学習会を開催した。（廿日市市と共催）

開催日	内 容	開催場所	参加者
10/30	庄原市における「ひきこもり」の方たちへの支援について 講師：庄原市社会福祉協議会 事務局長 小滝 一樹 さん	廿日市市総合健康福祉センター (山崎本社みんなのあいプラザ)	39人
2/21	ひきこもり勉強会 ～岡山県総社市の取組に学ぶ～ 講師：総社市社会福祉協議会 相談支援課課長 山田 信二 さん	廿日市市総合健康福祉センター (山崎本社みんなのあいプラザ)	35人

(4) きっかけプロジェクト実施（新規）

社会とつながるきっかけづくりとして、地域の人に協力してもらい「きっかけプロジェクト」を実施した。

開催日	内 容	参加者
11/25	オレの船で釣りに行こう!!	2人

[令和元年度重点的に取り組む事項]

・大竹市社協、広島市佐伯区社協と合同で定期的に協議を行い、連動した講演会の実施や社会資源マップの共同作成を通して連携を図る。

→3 社協合同での協議は実施できなかったが、講演会の開催に際しては、大竹市社協と連携を取りながら開催した。

社会資源マップについては、今後も調査をしながら作成していく。

## 【佐伯地域】

### 基本目標（1） 社会参加や役割発揮のための人づくり参加の入口づくりを進めます

#### 1 ボランティアセンター活動推進事業（自主・共募 290千円）

##### （1）ボランティア調整（派遣）及び活動支援

ボランティアに関する相談に応じ、ボランティアの調整（派遣）と活動支援を行なった。

##### （2）れすとはうす「花かご」の管理運営

世代間交流やサロン開催、文化活動、相談活動等、ボランティア活動の拠点施設として、管理運営を行なった。また、年1回（4月）、花かごパンフレットを発行した。

【れすとはうす「花かご」利用実績】（ ）内は前年度実績

開館日数	内 容	来館者
208日 (213日)	・ボランティア活動（おもちゃの会、手話でおしゃべり、おはなし会、あけぼの会、リフレッシュクラブ） ・ふれあいサロン（たまてばこ、ちゅうりっぷの会、おしゃべり広場、れもんの会） ・文化・健康活動（パッチワーク、牛乳パック工作、編み物、楽彩クラブ、リフォーム手芸、健康体操、コミュニケーション麻雀、百歳体操、パソコンで遊ぶ等） ・行事（草抜き＆茶話会、花植え、やさい市、フリーマーケット等）	延べ2,809人 (2,617人)
6/5	春の緑化活動（佐伯高校1年生とボランティア）	30人
10/30	秋の緑化活動（津田小学校4年生とボランティア）	40人

##### （3）ささえ愛ネットはつかいち佐伯支部「ひまわり会」の支援

開催日	内 容	参加者
4/6	ボランティア交流会	27人
2/26	ひまわり会役員会議	5人

##### （4）ボランティア養成講座の実施

ボランティアやサロン世話人、関心のある人を対象にボランティアの理解を深め、今後の活動の幅を広げるための講座を予定していたが、新型コロナウィルス感染拡大防止のため中止した。

開催日	内 容	実施場所	参加者
3/4	ボランティア養成講座「介護技術を楽しく学ぶ」 講師：吉岡 俊昭（トライカツジ 幸島医療福祉専門学校講師）	津田市民センター	中止

##### （5）ヤングボランティアスクールの実施

年間を通して、ボランティア活動に関心のある中・高・短大・大・専門学生を対象にボランティア活動、交流、体験「チャレンジクラブ」を実施した。

開催日	内 容	参加者
8/3	「さいきせせらぎ園夏まつり」の手伝い	3人
8/11	「療育相談会＆交流会」障がい児の付添・見守り	1人
9/28	「さいき水まつり」の手伝い	11人
10/20	「みかんデイキャンプ」障がい児の付添・見守り	9人
10/27	「心と心のハーモニーフェスタ」の手伝い、ステージ発表	44人

11/24	「わんぱく旅行バスハイク」障がい児・者の付添・見守り	1人
12/22	「みかんクリスマス会」障がい児の付添・見守り	7人

夏休みに小学生を対象とした手話教室と福祉施設との交流「ふれあい探偵団」を実施した。

開催日	内 容	参加者
8/7	手話教室「簡単な手話を学ぶ」 講師「手話でおしゃべり」メンバー 福祉施設（さいきせせらぎ園）との交流会（手話と歌の披露）	8人

## 2 障がい児・者福祉支援事業 (自主 34千円)

障がいのある人とその家族への理解を深め、地域で支え合う仕組みづくりを推進した。

### (1) 障がい児地域支援システムの構築

関係機関と連携し、未就学から学童期それぞれのライフステージで障がいのある子どもたちに、どのような支援や関わりが必要なのかを協議し、当事者やその家族に対して活動支援を行なった。

開催日	内 容	実施場所	参加者
8/11	発達に不安のある子どもたちの交流会 「作って食べて遊ぼう！」 クッキングとカローリング大会	津田市民センター	当事者：7人 家族：8人 ボランティア：9人 その他：6人
8/11	交流会&学習会 ① ボランティアと参加者の交流会（ペタンク体験、映画、ゲーム） ② 療育相談と学習会 講師：賀茂精神医療センター 療育指導室 元山 淳 さん	津田市民センター	当事者：7人 家族：8人 ボランティア：9人 その他：6人
11/30	講演会 「誰もが暮らしやすい地域社会を目指して」 講師 独立行政法人国立病院機構 賀茂精神医療センター 神経内科指導室 主任児童指導員 元山 淳 さん	さいき文化ホール	85人

### (2) わんぱく旅行実行委員会への支援 (共募 170千円)

障がい児・者の社会参加の促進、保護者の交流・情報交換の場を目的とした旅行を実施した。

開催日	内 容	実施場所	参加者
6/28	第1回実行委員会 (H30事業報告及びR1事業計画)	津田市民センター	役員等：6人
11/25	「わんぱく旅行（日帰りバスハイク）」 行き先：みはら民俗資料館、八天堂パン工場	広島県三原市	当事者：7人 家族：10人 ボランティア：13人

### 3 精神障がい者福祉支援事業 (自主・共募 26千円)

#### (1) 当事者支援の実施

精神保健福祉サロン「ちゅうりっぷの会」活動支援を行なった。また、当事者家族のおしゃべりサロン「こぶし会」定例会に出席して活動支援を行なった。

#### (2) ボランティア養成

精神保健福祉講座を予定していたが、新型コロナウィルス感染拡大防止のため中止した。

開催日	内 容	実施場所	参加者
3/10	テーマ：こころの病気の理解と支援 ～相談事業の活動について～ 講 師：医療法人社団友和会 相談支援事業所 エスペランサ 相談専門員 精神保健福祉士 金子 智範 さん	津田市民センター	中止

### 4 地域のつどい・サロン支援事業 (市域全体予算として 1,232千円) 【重点】

#### (1) サロン連絡会議の実施

開催日	内 容	実施場所	参加者
6/11	サロンミニ講座「中・高齢者の交通安全教室」 講師：澤江 浩一 さん（くらし安全指導員）	津田市民センター	16人
	第1回サロン連絡会議 情報交換会		8人
11/13	ふれあいサロン講座「おうちの片付け方」 講師：湯上 みどり さん (片付けコーディネーター)	津田市民センター	19人
2/18	サロンミニ講座「地域住民による支えあい活動」 講師：社協職員	津田市民センター	14人
	第2回サロン連絡会議 情報交換会		14人

#### (2) ふれあいサロン活動集の発行

#### (3) 出前サロンの実施

開催日	内 容	場 所	参加者
6/18	健康相談、レクリエーション・茶話会 社協ミニ講座「地域住民による支えあい活動」	玖島一丁田集会所	4人
6/27	健康相談、レクリエーション・茶話会 社協ミニ講座「地域住民による支えあい活動」	浅原市野集会所	11人
11/18	健康相談、折り紙工作、茶話会他	玖島一丁田集会所	7人
11/29	健康相談、折り紙工作・茶話会他	浅原市野集会所	14人
3/5	ちょっとひと息医療とふくしの相談室と共催 (新型コロナウィルス感染拡大防止のため中止)	下友田集会所	中止

#### (4) ふれあいサロン「オルゴール」浅原・友和・玖島・津田各地域で毎月1回開催した。

(各市民センターと共に事業)

開催日	実施回数	実施場所	参加者
毎月第1金曜日	10回	浅原市民センター	延べ128人
毎月第2金曜日	11回	友和市民センター	延べ402人
毎月第3水曜日	11回	玖島市民センター	延べ140人
毎月第4金曜日	11回	津田市民センター	延べ227人

※津田市民センターでは津田保育園児の参加による世代間交流

- (5) 未就園児を育てる保護者と子どものサロン(赤ちゃんすくすく広場)支援  
佐伯・吉和子育てネットワーク会議に参画し、子育て支援活動を行なった。
- (6) 小地域のお茶の間づくり事業の支援  
お茶の間サロン「花かご」の世話人会議(毎月1回)に参加し、運営の支援を行なった。
- (7) ふれあいサロン訪問(6か所)  
地域のふれあいサロンに訪問し、地域(サロン)の情報収集に努め、地域の支えあい活動について説明した。
- (8) レクリエーショングッズの貸出し(73件)

[令和元年度重点的に取り組んだ事項]

- ・各地域のコミュニティと連携し、地域のつどい・サロンの運営支援、新規立ち上げを推進する。また、関係機関と連携し、サロンが開催されていない小集落へ出掛け、出前サロンを開催する。  
→出前サロンからふれあいサロンへ移行できたものも含め、新しく3か所のふれあいサロンが立ち上がった。
- 関係機関と連携し出前サロンを行い、生活支援体制整備事業について説明し、地域の支えあいについて考えてもらった。
- サロン訪問も積極的に行い、地域(サロン)の情報収集に努め、また生活支援体制整備事業について説明し、ふれあいサロンの重要性や助け合いながら地域で暮らしていくことについて考えてもらった。

## 基本目標(2) 組織(主体)の意識や活動を進化させます

### 1 地域福祉活動事業(自主 155千円)

#### (1) 福祉委員活動推進事業の実施

福祉課題解決のために、地域住民や福祉関係機関と連携し、地域で支え合う仕組みづくりを推進した。

##### ア 福祉委員会議

福祉活動を実践する助け合いのネットワークの充実を図ることを目的とした福祉委員会議を開催した。

##### (ア) 対象者

・福祉委員：105人 取りまとめ：39人

##### (イ) 内容

開催日	内 容	参加者
4/23	社協活動の説明 福祉委員活動及び日赤活動資金・社協会費募集	① 玖島地区(5人) ②友和地区(17人)

～4/24	について	③浅原地区(5人) ④津田四和地区(24人) ⑤全地区合同(6人)
9/24	社協活動の説明	①玖島地区(4人) ②友和地区(14人)
9/25	日赤活動資金・社協会費募集状況及び共同募金活動について	③玖島地区(5人) ④津田四和地区(17人) ⑤全地区合同(9人)

#### イ その他の活動

地域のサロン、敬老会、福祉まつりなどの取組みへの協力や民生委員児童委員と連携したニーズ把握

#### (2) 福祉施設等連絡会の開催

佐伯地域での施設間の交流・連携を図り、共通の問題を取り上げ、今後の取組みについて検討した。また、佐伯地域ケア会議との連携に努めた。

開催日	内 容	参加団体数
5/31	令和元年度の取組みや現況報告を基に地域課題等について協議した。また、ヤングボランティアスクールの協力や地域福祉カルテの作成、心と心のハーモニーフェスタの参加などの協力を呼びかけ、施設間との連携を図った。	8団体
11/8	「心と心のハーモニーフェスタ」の反省会	11団体
※ 佐伯地域ケア会議（毎月第4水曜日）参加		

#### (3) 広報啓発活動の実施

佐伯地域の福祉情報紙「ひまわり日和」を年6回（No.114～119）、約18,000部発行した。

#### (4) 過疎地域における福祉活動とその関わり

関係機関との連携により、出前サロンを実施し、過疎地域における福祉活動の活性化を図った。

出前サロン：年4回開催（第5回目は、新型コロナウィルス感染拡大防止のため中止）  
(6/18・11/18 玖島：一丁田、6/27・11/29 浅原：市野、3/5 友和：下友田中止)

#### (5) 各地域のコミュニティ支援

- ・玖島、友和、津田・四和、浅原のコミュニティ活動支援及び助成金を交付
- ・地域のつどい・サロンの情報共有や研修会等を通じて、サロンの運営及び活動支援を推進した。

#### [令和元年度重点的に取り組む事項]

- ・佐伯支所をはじめ、民生委員児童委員協議会や地域の福祉施設、各地域のコミュニティなど関係諸機関と連携し、過疎地域における福祉問題やニーズを探りながら、出前サロンなどを開催し、各地域における社会福祉活動事業を推進する。  
→過疎が進みサロンが開催されていない小集落への出前サロンを開催し、小地域でのささえあいネットワークづくりの推進を図るため「地域住民の支えあい活動」についてミニ講座を行なった。

## **基本目標（3） 地域の問題解決に必要な情報を共有します**

### **1 地域福祉活動事業（基本目標（2）－1 再掲）**

#### **(1) 広報啓発活動**

佐伯地域の福祉情報紙「ひまわり日和」を年6回（No.114～119）、約18,000部発行した。

### **2 心と心のハーモニーフェスタ（団体助成事業：自主・共募 933千円）**

実行委員会形式で実施し、48団体が参加した。

開催日	会場	来場者	ボランティア
10/27	さいき文化センター	2,100人	200人

- ・ささえ愛ネットはつかいち（廿日市・佐伯・大野支部）の協力により、手話・点訳の体験コーナーを設置した。同時に、ボランティア活動及びサロン活動を紹介した。
- ・佐伯地域の社会福祉施設などが参加し、市民と交流ができた。
- ・佐伯中学校吹奏楽部やソーラン部による協力を得て、ステージ発表を行なった。
- ・佐伯高等学校生徒会による総合司会で、ステージ発表や参加団体のインタビューなどをを行い、会場全体を盛り上げることができた。

## 【吉和地域】

### 基本目標（1） 社会参加や役割発揮のための人づくり参加の入口づくりを進めます

#### 1 ボランティアセンター活動推進事業（吉和：市補助・共募 48千円）

##### （1）ボランティアに関する相談・調整・情報提供等の各種支援

福祉活動の担い手であるボランティアの活動が円滑に進められるよう、ボランティアの派遣調整、研修会の開催、情報提供等の支援を行なった。

##### （2）ささえ愛ネットはつかいち吉和支部「ボランティア吉和」の支援

吉和地域のボランティア「ボランティア吉和」の活動に対して支援した。

高齢者や障害のある人が社会参加のため外出する際の補助や、災害が起こった時のボランティアとしての心得を学ぶための研修会を開催した。

開催日	内 容	参加者	
		Vo.スタッフ	その他
4/6	ボランティア吉和総会	13人	1人
5/30	障がい者日帰りバスハイク	6人	9人
7/24	あつまろう家	7人	14人
8/24	ボランティア吉和交流会	10人	9人
9/1	障がい者スポーツ大会	7人	14人
9/14	吉和地域敬老会	8人	18人
10/5	研修会「発災後のボランティアについて」	11人	4人
11/2	すこやかプラザまつり	2人	3人

#### 2 地域のつどい・サロン支援事業（市域全体予算として 972千円）

地域の中で気軽に活動できる拠点として開催された「つどい・サロン」の運営について支援した。

開催日	サロン名	内 容	回数	参加者
毎週金曜日	囲碁のつどい	囲碁	37回	93人
隔週月曜日 ただし冬季は 毎週月曜日	カラオケサロン	カラオケ	24回	186人
冬季のみ 毎週水曜日	よしわ ふれあいサロン	冬場の閉じこもり防止を目的にしたカローリング等の実施	8回	129人
毎週火曜日	いきいきサロン	百歳体操	39回	551人

### 基本目標（3） 地域の問題解決に必要な情報を共有します

#### 1 いきいき活動推進事業

社協だより「ぬくもり」の発行

毎月1日、吉和地域版の広報紙、「ぬくもり」を全戸に配布し、地域活動の予定及び活動

報告、ボランティア募集等、吉和地域の福祉情報を周知した。(470部/月)

## 2 すこやかプラザまつり (共募 25千円)

吉和地域の福祉まつり「すこやかプラザまつり」を「吉和文化祭」と同日開催した。

開催日	会 場	来場者	Vo. スタッフ
11/2	吉和福祉センター（すこやかプラザ）	250人	24人

- ・社協吉和事務所で行なっている事業の紹介や、「福寿会」「障がい者福祉協会吉和支部」「ボランティア吉和」等の活動をパネル紹介した。
- ・「すこやかサロン」「ボランティア吉和」が遊休品をバザー出店し販売、売り上げ金の一部を「赤い羽根共同募金」に寄付した。また、団体の活動を紹介した。
- ・支所市民福祉グループ、吉和公衆衛生推進協議会、よしわせせらぎ園、吉和ヘルスマイト等の団体により、健康チェックやミニ体験等を行なった。
- ・社協と参加団体が合同で、スタンプラリーを実施した。

## 基本目標（4） 社会的孤立を見逃さないための仕組みづくりを進めます

### 1 多機能サロン実施事業 (自主・共募 307千円)

高齢者サロン、福祉作業所、障がい者デイサービス、子育て中の親子の行き場といった多目的な要素を併せ持ったサロン「すこやかサロン」を実施し、地域や自宅で孤独感を抱かず、また心身ともに健康な生活ができる場づくりに取り組んだ。

開催回数	開催場所	内 容	参加者
月3回 (延べ25回)	吉和福祉センター他	ラジオ体操/折り紙/食事作り/地域行事に参加/DVD鑑賞/散歩/文化祭作品準備及び見学/書き初めなどの季節の行事/スポーツ体験/百歳体操 他	当事者 延べ41人 スタッフ 延べ100人

### 2 障がい者福祉事業 (市委託 1,038千円)

#### (1) 知的障がい者生活訓練教室開催事業

知的障がい者の社会参加促進を目標に、日常生活の上で必要な訓練や創作活動等を実施し、社会参加の促進や生きがいづくりを行なった。

開催日	内 容	場 所	参加者	
			当事者	スタッフ
4/6	社会参加 ・ボランティア吉和とアルミ缶の整理及びレクリエーション	吉和福祉センター	1人	13人
4/16	社会参加 ・百歳体操 ・塗り絵	吉和福祉センター	1人	4人
5/14	生活訓練 ・百歳体操 ・室内ゲーム	吉和福祉センター	2人	4人
5/21	生活訓練 ・百歳体操 ・カレンダー作り	吉和福祉センター	2人	4人

6/4	生活訓練 ・百歳体操 ・カレンダー作り	吉和福祉センター	1人	4人
6/18	生活訓練 ・百歳体操 ・散歩	吉和福祉センター	1人	4人
7/2	社会参加 ・百歳体操 ・塗り絵	吉和福祉センター	1人	4人
7/23	生活訓練 ・百歳体操 ・音楽鑑賞	吉和福祉センター	1人	4人
7/30	生活訓練 ・百歳体操 ・カレンダー作り	吉和福祉センター	1人	4人
8/21	社会参加 ・障がい者スポーツ教室	吉和福祉センター	21人	3人
8/24	社会参加 ・ボランティア吉和交流会	吉和福祉センター	1人	18人
9/1	社会参加・外出訓練 障がい者スポーツ大会	吉和福祉センター	11人	10人
9/17	生活訓練・外出訓練 ・百歳体操 ・昼食の買い出し	吉和福祉センター	1人	4人
10/8	生活訓練 ・百歳体操 ・室内ゲーム	吉和福祉センター	1人	4人
10/29	生活訓練・外出訓練 ・百歳体操 ・散歩 (紅葉)	吉和福祉センター	2人	4人
11/2	社会参加 ・すこやかプラザまつり	吉和福祉センター	1人	6人
11/19	生活訓練 ・百歳体操 ・室内ゲーム	吉和福祉センター	4人	3人
12/24	生活訓練 ・こんにゃく作り	吉和福祉センター	2人	4人
1/14	生活訓練 ・百歳体操 ・室内ゲーム	吉和福祉センター	1人	4人
1/28	生活訓練 ・百歳体操 ・カレンダー作り	吉和福祉センター	2人	4人
3/3	生活訓練 ・百歳体操 ・ひなまつり (新型コロナウィルス感染拡大防 止のため中止)	吉和福祉センター	中止	
3/24	生活訓練 ・百歳体操 ・1年間の振り返り (新型コロナウィルス感染拡大防 止のため中止)	吉和福祉センター	中止	

## (2) 障がい者スポーツ教室開催事業

障がい者スポーツを通じて障がい者の自立と社会参加の促進及び体力の向上を図るとともに、小学生や地域住民との交流の場づくりに努め、障がい者の関心や理解を深めることができた。

開催日	内 容	当事者	小学生	その他
8/21	車椅子を使ってスポーツ体験 講師：障がい者スポーツ指導員 渡部 安彦 さん	3人	15人	6人

### 3 障がい者地域社会交流事業 (吉和 共募・市補助 132千円)

障がい者手帳保持者を対象とし、一人では外出することが難しい障がい者に対して外出支援、社会参加目的とした「日帰りバスハイク」を実施した。

開催日	場 所	対象者・家族	ボランティア・職員
5/30	岩国市 ・岩国防災学習館見学体験	9人	6人

### 4 いきいき活動推進事業 (自主・共募 324千円)

中山間地域・過疎地域に見合った地域課題やニーズから、地域の取組みへと発展させるために市と連携しそうまざまな事業を展開した。

#### (1) 生涯暮らし続けられる吉和地域を考える福祉座談会等の支援

吉和地域に生涯暮らし続けるために、地域住民を中心に行政、専門職等の協働による地域包括ケアシステムづくりを推進していくため、下記のとおり会議等を行なった。

会議	開催日	参加者	内 容
総会	7/17	14人	・生涯暮らし続けられる吉和地域をつくる会会則について ・福祉バス運行事業について ・その他
役員会	1/17	6人	・福祉バス運行事業について ・運行形態等の住民アンケート実施について

#### (2) あつまろう家（ひとり暮らし等高齢者懇談会）実行委員会への助成

ひとり暮らしなどの高齢者の集う場づくりのため、民生委員児童委員・ヘルスマイト・コミュニティよしわ・ボランティア吉和と協働で「あつまろう家」が実施され、活動の側面的支援を行なった。

開催日	場所	内 容	参加者
5/8	吉和福祉センター	あつまろう家実行委員会 ・平成30年度の事業報告、会計報告 ・令和元年度の実施計画	5人
6/5	吉和福祉センター	あつまろう家献立会議 ・いなりずし ・ひじきハンバーグ ・ほうれん草とえのきの和え物 ・具だくさん野菜スープ	5人
7/5	吉和保健センター	試食会 ・上記メニューの試作	8人

7/24	開催： 吉和福祉 センター 調理： 吉和保健 センター	あつまろう家開催 ・廿日市警察署巡查部長 松原 由直 さん 「特殊詐欺」について ・安佐北消防署安芸太田出張所 「火災予防と救急車の適正使用」について ・地域防災相談員 三浦 勇二 さん 「水害」について	47人 (対象者 26人、 協力者 21人)
12/11	吉和福祉 センター	あつまろう家実行委員会 ・前回の振り返り ・次回の計画について打合せ	5人
1/17	吉和福祉 センター	あつまろう家献立会議 ・巻きずし、いなりずし ・鮭のホワイトソース ・ほうれん草とこんにゃくの白和え ・かす汁 ・タルトタタン又はバナナ蒸しパン	5人
2/6	吉和保健 センター	試食会 ・上記メニューの試作	7人
3/5	吉和福祉 センター	あつまろう家 ・廿日市警察署巡查部長 松原 由直 さん 「特殊詐欺」について ・廿日市市役所 「燃やせるゴミの有料化について」 ・吉和診療所 吉川 先生 「ためになるお話」 (新型コロナウィルス感染拡大防止のため 中止)	中止

(3) 予育てサロンの開催

吉和支所市民福祉グループ・市民センターと共に、すこやかサロンと同時開催した。

(4) 福祉車両の貸出し

地域の福祉団体等に「たすけあい号」を貸し出し、自主活動を支援した。また、安全に車両を利用もらうために適切な車両管理を行なった。

貸出実績：24件

(5) 葬儀用具の貸出し

自宅や集会所等の地元で葬祭を執り行う場合に、社協が所有する葬祭用具一式を貸し出した。

貸出実績：0件

[令和元年度重点的に取り組む事項]

・「生涯暮らし続けられる吉和地域をつくる会」を、吉和地域の第2層協議体と捉え、協議の場の提供、情報提供・情報収集・啓発研修などを行う。NPO法人「ほっと吉和」についても後方支援を行う。

→地域住民が主体となり、継続して取り組めるよう会議等の後方支援を行なった。

→NPO法人「ほっと吉和」が進めている、福祉バス運行事業開始に向けて、市担

当課、吉和支所と令和2年度運行開始を目標に協議した。

- ・外部からの支援を受け入れる体制をつくる。  
→支援体制を構築することはできなかったが、会員の募集や地域福祉活動等を社協だより「ぬくもり」に掲載し地域内外に情報提供した。

## 【大野地域】

### 基本目標（1） 社会参加や役割発揮のための人づくり、参加の入口づくりを進めます

#### 1 ボランティアセンター活動推進事業（自主185千円）<行動計画10>

##### （1）ボランティアセンターの機能強化

ボランティア活動の推進拠点である「ボランティアセンター」の機能強化を図り、ボランティア（個人及びグループ）が活動しやすいよう、相談・需給調整・養成・広報紙（ボランティアニュース）の発行（偶数月）などの基盤整備を行なった。

##### （2）ボランティア学園の開催

大野地域の小学生を対象に、多くの人との交流や活動を通じ、ボランティアに対する意識と理解を深めるため、次の活動を行なった。

ア 視覚障がい、聴覚障がいなど障がいの理解、点字や手話、音訳、ガイドヘルプの学習  
イ 福祉施設（アダージョ・洗心園等）で共同作業、入所者との交流促進

ウ 障がい者団体や家族会、中・高校生と一緒に「小さな夏まつり」のスタッフとしての活動

開催日	内 容	参加者
7/24	入園式 手話体験	12人
7/25	音訳・点訳・アイマスク体験	12人
8/2	「小さな夏まつり」への参画	11人
8/5	施設訪問介護体験（Aグループ：洗心園）	4人
8/6	施設訪問介護体験（Bグループ：アダージョ）	7人

##### （3）ささえネットはつかいち大野支部「大野ボランティア連絡協議会」の支援

開催日	内容	詳 細	参加者
6/4	大野西小打合せ	6年生を対象に福祉体験学習をするにあたり、小学校教諭とともに事前打合せ	7人
6/30	大野西小体験学習	6年生へ手話サークル「かざぐるま」から7人、点訳グループ「てのひら」から18人、音訳グループ「エコー」から7人	32人
7/12	研修	はつかいちエネルギーセンターの見学と新施設でのごみ処理の流れについて説明を聞く。	37人
9/2	講座	音訳ボランティアステップアップ講座として開催。ボランティア連絡協議会の音訳以外のグループにも参加を呼びかける。	9人
9/10	大野東小打合せ	3年生を対象に福祉体験学習をするにあたり、小学校教諭とともに事前打合せ	5人
10/21	表彰式	広島県社会福祉大会にて、「廿日市市大野ボランティア連絡協議会」として広島県社会福祉協議会会长表彰、受賞。	1人
10/16	大野東小体験学習	3年生へ手話体験学習を実施。手話サークル「かざぐるま」が活動。	17人
10/23	大野東小体験学習	3年生へ介護教室を実施。他団体とともに、音訳グループ「エコー」が活動。	2人

10/24	大野東小 体験学習	3年生へ点訳体験学習を実施。点訳グループ「てのひら」が活動。	17人
11/7	研修	日本盲導犬協会・島根あさひ訓練センターを訪問し、盲導犬の訓練の仕方や、盲導犬の役割について学ぶ。	42人

- (4) 大野地域の児童・生徒が取り組む地域社会貢献活動に対する活動支援  
ア 大野地域の児童・生徒が取り組む地域社会貢献活動に対する助成金の交付や活動支援を行なった。  
(ア) 県立宮島工業高校の地域貢献活動支援  
(イ) 大野子どもクラブ「ビッグ・フィールド大野隊」の地域貢献活動支援  
イ ボランティア学園の開催（再掲）  
ウ 大野地域の小学校における福祉ボランティア学習の推進  
(ア) 大野西小6年生のボランティア学習

開催日	場所	内 容
5/24		大野西小学校 6年生（92人）対象
6/30	大野西小学校	事前学習「身近な福祉」を学ぼう
10/26		手話・点訳・音訳・ガイドヘルプの体験学習 「大野学園祭」で発表

- (イ) 大野東小3年生のボランティア・介護学習

開催日	場所	内 容
	大野東小学校	大野東小学校 3年生（120人）対象 全員学習 ・事前学習 ・ボランティア活動者の想いを聞く ・手話・点訳の体験学習
9/25 10/16 10/23 10/24	大野福祉保健センター	グループ学習（各グループ24人ずつ） ・車イス ・ガイドヘルプ ・工作 ・健康体操 ・認知症サポーター

[令和元年度重点的に取り組む事項]

- ・地域住民や関係団体の協力の下、児童、生徒が取り組む地域貢献活動の推進を図る。  
→地域内の関係団体をはじめ、小・中・高校生などが参加することで、多くの人の交流や活動を通じ、ボランティアに対する意識と理解を深めることができた。

## 2 障がい児・者地域生活支援事業（自主・共募160千円）<行動計画4>

障がいのある人の地域参加・交流を促進し、地域で暮らし続けたいと思える地域づくりを進めた。

- (1) 障がいのある子どもを育てる家族の「おしゃべり会」の開催  
障がいのある子どもを育てる家族が自由に集い、お互いの子育てについての情報交換や交流の場である「おしゃべり会」を月1回程度開催し、学習会を開催した。

開催日	場所	内 容	参加者
4/16・5/18・ 6/12・7/10・ 9/11・ 10/23・ 11/13・ 12/11・2/12	大野支所	障がいのある子どもを育てる家族が自由に集い、お互いの子育てについての情報交換や交流の場を提供。	延べ 54人
1/29	大野支所	「子どもの育ちや気になること相談会」 講師：廿日市市障がい福祉相談センター きらりあ 相談支援専門員 橋 恵さん	15人

(2) 当事者活動の支援

当事者団体であるハーモニーO B・OGの活動を支援し、ボランティアの調整を行なった。

開催日	実施項目	内 容	ボランティア
5/11	職場体験実習	廿日市市高齢者ケアセンターの協力で、一般就労の職場体験を行なった。	2人
5/31・ 10/18	喫茶「ぱっぽ」	高齢者ケアセンター内の喫茶「ぱっぽ」で昼食を提供。	延べ 8人
6/18	鍋奉行	高齢者の集い「サロン阿品」での昼食を提供。	4人
7/27	ボランティア活動	2 区ふれあいサロン（さわやか会）でのカレー作り。	3人
9/12・ 12/11	お化粧教室	ヤクルト化粧品の協力を得て、阿品清鈴園の入所者へのお化粧ボランティアをした。	一
5/18	ネイル体験	地域ボランティアとネイル体験を行なった。	1人

(3) 大野障がい者団体連絡協議会の支援

ア 会議への参加

会議に参加し、意見交換、活動の助言、及び情報共有を行なった。

開催日	内容	参加団体
6/13	役員選任について・事業報告・事業計画・「小さな夏まつり」について	障害者福祉協会大野支部・H a n a と花舎・おおの手をつなぐ育成会・アダージョ・大野ふれあい生活介護事業所・あいあい作業所・生活介護事業所ばずてる
11/28	次年度の計画・交流会について	障害者福祉協会大野支部・H a n a と花舎・おおの手をつなぐ育成会・アダージョ・大野ふれあい生活介護事業所・あいあい作業所・生活介護事業所ばずてる・みんなの手
3/6	交流会について	障害者福祉協会大野支部・H a n a と花舎・おおの手をつなぐ育成会・あいあい作業所・生活介護事業所ばずてる・みんなの手・なづな

イ 小さな夏まつりの開催協力

小さな夏まつりの開催に当たり、関係各所との調整等、さまざまな形で協力した。

開催日	場所	参加団体	参加者 (ボランティア)
8/2	大野福祉保健センター	大野障がい者団体連絡協議会・宮島工業高等学校・大野中学校・大野東中学校	約 300 人 (40 人)

ウ 交流会の開催協力

障がい者の交流会の開催にあたり、関係団体との調整や運営支援を行なったが新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。

(4) 精神保健福祉ボランティアの発掘・育成

ア 本人やその家族の自主活動の支援

毎月実施の「精神障がい者ソーシャルクラブ（プラム）」の取組みに対して、保健師と連携をとりながら協力した。

イ 精神保健福祉ボランティアの育成

精神障がい者等への理解を深め、社会参加の手助けができる人材を育成し、ボランティア活動に活かした。

回	開催日	内 容	参加者
1	1/7	「精神保健福祉の現状と今後」 医療現場としての役割や地域住民の理解の大切さについて 講師：串戸診療クリニック 精神保健福祉士 岩田 卓郎 さん あいあい作業所紹介・大野地域での精神保健福祉活動 講師：あいあい作業所 所長 武地 成章 さん ソーシャルクラブ「プラム」について 講師：廿日市市大野支所健康福祉グループ 保健師 木下 智子 さん	15 人
2	1/14	大野ソーシャルクラブ「プラム」参加	10 人

(5) ソーシャルクラブ「プラム」への協力

ボランティア活動の場を確保するため、ソーシャルクラブ「プラム」へのボランティア調整を行なった。

回	開催日	内 容	ボランティア
1	4/16	お弁当を作ってピクニック	5 人
2	5/21	調理・七夕飾りづくり	5 人
3	6/3	ソーシャルクラブ交流会（あいプラザ）	5 人
4	7/16	大野学校給食センター施設見学と試食	3 人
5	9/17	健康講座	3 人
6	10/15	調理実習・ストレッチ、ボール体操	6 人
7	11/19	クリスマスリース作り・豚汁づくり	4 人
8	12/25	クリスマス会	3 人
9	1/14	調理・ゲーム・次年度計画	15 人
10	2/18	手品・ギター演奏・体操	8 人

(6) 障がい理解講座の開催

障がい理解と、障がい児者の地域生活支援のため、保護者対象の講座を開催した（再掲）。

[令和元年度重点的に取り組む事項]

- ・障がい者の地域活動への参加を促し、地域住民の障がいに対する理解を深める。  
→「おしゃべり会」の案内を通級学級および保育園にも配布し広く参加を促した。

### 3 地域のつどい・サロン支援事業（自主・共募・その他1,132千円）<行動計画15>

#### (1) 地域のつどい・サロン支援助成

各区で開催される地域のつどい・サロンの活動費を助成し、安定的運営を支援した。

#### (2) ふれあいサロン活動概況調査

各区で開催される地域のつどい・サロンの概況を把握し、地域住民への情報提供等に役立てた。

#### (3) 世話人交流会の開催

各区のサロン世話人同士の情報交換や社協からの事業提案などにより、サロン運営の活性を促した。

開催日	場所	内容	参加者
2/5	大野支所	コーヒーのおいしい入れ方講座・グッズ体験・交流	10人

#### (4) レクリエーショングッズの貸出し

各区で開催される地域のつどい・サロンで活用するレクリエーショングッズを貸し出した。

貸出件数	25件
------	-----

[令和元年度重点的に取り組む事項]

- ・各区のサロン活動を他区の活動の参考にしてもらうため、サロンを訪問した時の様子を「サロン訪問記」として発行し、広く広報する。

→大野地域の全サロンを掲載した「ふれあいサロン活動集」を作成し、各区及びサロン、地域内の事業所に配布してサロン活動を広くお知らせした。

- ・レクリエーショングッズの貸出し促進を図る。

→世話人交流会でレクリエーショングッズの体験をしてもらい、利用促進に努めた。

## 基本目標（2） 組織（主体）の意識や活動を進化させます

### 1 ふれあいのまちづくり推進事業【重点】（自主・共募5,304千円）<行動計画5>

誰もが、住み慣れた地域で暮らし続けていくために、現行で実施されている福祉サービスだけでは解決できない福祉ニーズを解決するための仕組みを地域の福祉を推進していく機関等の連携の中で考えていく他、大野の各区で取り組まれている実践を大野地域に広報した。

#### (1) 地域福祉推進委員会の開催

大野地域の福祉課題の共有及びその解決策について考えていく地域福祉推進委員会（第2層協議体）を、年2回開催した。

開催日	会場	内 容	参加者
7/3	大野支所	<ul style="list-style-type: none"><li>・大野地域福祉推進委員会役員の選任について</li><li>・平成30年度地域福祉推進事業報告</li><li>・令和元年度地域福祉推進事業計画</li><li>・大野地域福祉推進委員会設置要綱の改正</li></ul>	36人

		・生活支援体制整備事業について ・大野地域福祉推進研究協議会について	
1/31	大野支所	・地域ケア会議について ・ワークショップ『大野地域の福祉活動を知る』 ・大野地域福祉推進研究協議会について ・市社協からのお知らせ	39人

(2) 地域福祉推進研究協議会の開催

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。

(3) 各種地域福祉活動への助成

ア 一般会費地区交付金

各区に一般会費の7割を交付し、地域福祉活動の推進に努めた。

イ 地区福祉活動費助成

(ア) 自主活動助成

地域の高齢者や障がい児・者、子どもを対象に行われる大野地域の区の自主活動による支え合い活動に対し、その経費の一部を助成した。

(イ) 福祉部会活動助成

地域の高齢者や障がい児・者、子どもを対象に行われる大野地域の区の福祉部会による支え合い活動に対し、その経費の一部を助成した。

(ウ) サロン開催助成

地域の高齢者や障がい児・者、子どもを対象に行われる大野地域の区のサロン開催に対し、その経費の一部を助成した。さらに県社協の「地域のお茶の間づくり」事業の指定終了地区に対し、指定終了後の2か年に限り助成を継続した。

ウ 給食サービス助成

区の福祉部会が地域ボランティアを募り、地区内の一人暮らしの高齢者及び障がい者世帯等に、食事の提供と安否確認を行う事業に対し、活動経費の一部を助成した。

実施地区	回数	人数
第2区	10回	241人
第5区	7回	118人

(4) 地区環境美化活動（花いっぱい運動）の推進

各地区的花いっぱい運動を支援し、住民同士及び障がい者施設との交流に努めた。

花苗配布日	品種	数量
5/30	サルビア、マリーゴールド、日々草、ベゴニア	2,560個
10/24	パンジー、葉牡丹、ノースボール	2,560個

(5) 大野福祉ふれあいまつり実行委員会の支援

「おおの健康福祉フェスタ」の福祉部門を企画・運営する「大野福祉ふれあいまつり実行委員会」への助成及び運営支援を通じ、住民への福祉啓発を図った。

ア 大野福祉ふれあいまつり実行委員会

回	開催日	会場	参加団体
1	7/12	大野福祉保健センター	各区福祉部会・事業所 28団体
2	9/5	大野支所	各区福祉部会・事業所 26団体
3	12/2	大野支所	各区福祉部会・事業所 19団体
パザー部会	8/29	大野福祉保健センター	福祉部会・事業所 13団体
展示部会	8/29	大野福祉保健センター	福祉部会・事業所 15団体

イ おおの健康福祉フェスタ

開催日	会場	参加団体	来場者
10/6	大野福祉保健センター	各区福祉部会・事業所 28 団体	1,500 人

(6) ふれまちだよりの発行

大野地域版の広報紙「ふれまちだより」を偶数月に発行した。

(7) 車いすの貸出し

在宅で緊急的かつ一時的に車いすを必要とする人に、日常生活上の負担の軽減や、社会参加等のための用具として貸出しを行うほか、学校や地域における福祉体験活動等の用具として貸出し、市民の地域福祉に対する関心と理解を深めた。

( ) 内は前年度実績

件数	47 件 (59 件)
台数	87 台 (59 台)

[令和元年度重点的に取り組む事項]

- ・大野地域の第2層協議体となった大野地域福祉推進委員会で、地域の福祉課題及び生活支援サービスの開発についての議論が進むような運営を目指す。  
→第2回地域福祉推進委員会で、ワークショップを行い、地域内の福祉活動を知ることができた。
- ・地区環境美化活動での花苗の地区別配布数を見直す。  
→例年通り配布した。

### 基本目標（3） 地域の問題解決に必要な情報を共有します

#### 1 事務局運営事業 (自主778千円)

大野地域の福祉推進の拠点となる本会大野事務所を運営した。

[令和元年度重点的に取り組む事項]

- ・大野支所新庁舎への事務所移転を機に、地域の福祉の窓口としての機能拡充を図る。  
→各種事業に関する会議やイベントについても現庁舎を積極的に活用することで、拠点となるイメージづくりに努めた。

### 基本目標（4） 社会的孤立を見逃さないための仕組みづくりを進めます

#### 1 高齢者等移送サービス事業 (共募356千円) <行動計画4>

通院や買物などの日常生活の利便向上や社会参加の促進を図るため、交通不便地域を含む大野地域全域を対象として、巡回車両を運行した。

( ) 内は前年度実績

午前1便	午前2便	午後3便	午後4便
0 人 (50 人)	84 人 (56 人)	0 人 (53 人)	52 人 (77 人)

## 【宮島地域】

### 基本目標（1） 社会参加や役割発揮のための人づくり参加の入口づくりを進めます

#### 1 地域のつどい・サロン支援事業

##### (1) サロン活動相談支援

サロン名	開催日	開催場所
サロンにきんさい	毎月 2 回 第 1・3 水曜日	宮島市民センター
すずめ会	毎月 11・25 日	杉之浦市民センター

##### (2) レクリエーション用品の貸出件数 0 件

### 基本目標（3） 地域の問題解決に必要な情報を共有します

#### 1 地域ふれあいフェスタ（団体助成：自主・共募 148 千円）

福祉関係団体・ボランティアなどと協働し、「手作り感」を意識して開催した。福祉関係団体の活動を展示コーナーで紹介することにより、相互理解を深めた。

開催日	会場	来場者	ボランティア
8/2	宮島福祉センター	約 250 人	61 人

### 基本目標（4） 社会的孤立を見逃さないための仕組みづくりを進めます

#### 1 高齢者自立支援事業【重点】（自主・共募 197 千円）

主に 70 歳以上のひとり暮らし高齢者や生活に不安を感じる高齢者世帯を対象に、関係機関と連携し、地域見守り活動も兼ねて実施した。

##### (1) 高齢者給食サービス事業の実施

宮島町食生活改善推進協議会、宮島地区民生委員・児童委員の協力を得て、年 5 回、3 つの地域に会場を分けて実施した。

開催日	場所	対象者	参加者
4/16、7/16、10/15 1/21、2/18	中西集会所 宮島市民センター 宮島福祉センター	主に 70 歳以上の ひとり暮らし高齢者	延べ 153 人

##### (2) ひとり暮らし高齢者懇談会の開催

宮島町女性会、宮島地区民生委員・児童委員の協力を得て、サロン的な食事会を開催した。また、山口県東部ヤクルト販売から講師を招き、生活に必要な情報の提供を行なった。

開催日	場所	内 容	参加者
5/21	宮島市民センター	「おなか元気教室」 講師：山口県東部ヤクルト販売（株） 協力：宮島町女性会	22 人
12/17	宮島福祉センター	「認知症予防について」 講師：山口県東部ヤクルト販売（株） 協力：宮島地区民生委員児童委員協議会	11 人

##### (3) あんしんほっとコール事業の実施

ひとり暮らしに不安を抱える4人の高齢者世帯に対して、希望される曜日や時間に電話による定期連絡を行い、安否確認や見守り活動を実施した。

(4) 歳末みまもり事業の実施

ひとり暮らし高齢者、母子家庭世帯などを対象とした121世帯に、年末にお赤飯などを手渡しし、声かけを行なった。

[令和元年度重点的に取り組む事項]

- ・給食サービス、懇談会については、各団体と連携を図り、参加者以外の人たちの情報を収集し、孤立状態の人の発見につなげている。今後も連携を密にし、情報共有していくことで、高齢者が安心できる生活を実現していく。  
→協力団体への対象者に関する情報の収集。これまで参加されていない人への呼びかけを行なっている。孤独感の緩和を図り、安心できる生活につなげた。
- ・あんしんほっとコールについては、利用者の生活状況等の確認を行い、見守り活動を推進していく。  
本事業について、地域の広報誌や行事ごとの場で説明を行うとともに、地域包括支援センターーやケアマネージャーより利用対象になる人に案内していただき、利用者の増加につなげる。  
→希望の曜日と時間に連絡し、安否確認と健康状態の把握を行なった。本事業について包括やケアマネージャーから対象になりうる人の情報を聞きとった。また、地域の広報紙などにより島民へ周知した。

## 2 福祉コミュニティ支援事業(自主・共募 12千円)

福祉コミュニティづくりを目的とした住民参加型の支援事業を実施した。

(1) 紙門松配布事業の実施

従来の門松等の虚礼を廃止し、資源保護などを目的に紙門松を配布した。

配布時期	配布世帯	配布枚数
11/28	799世帯	1,618枚

(2) 葬儀用具貸出事業

生活改善による葬儀の簡素化や地域コミュニティづくりのため、貸出事業を継続した。

貸出件数 0件

## ～円滑な事業推進体制のために～

「市民生活に即応した社協の仕事をどのように市民に提示できるか」、こうした基本認識の下で、計画目標を持った適正な執行管理を実現し、地域福祉の具現化を図るため、自立した「ありたい廿日市市の地域福祉の姿」の創出を目指した。

### 1 職員人材育成事業

職員の人材育成として、これから市社協の方向性を共有するため、常勤職員、嘱託職員及び非常勤職員等を対象に「職員全体研修会」を開催した。

また、新規採用職員及び採用3年目以内の若手職員を対象に、市社協職員として必要な基本的知識を習得させるため、会長、事務局長、総務課長及び地域福祉課長を講師として「新任・若手職員研修会」を開催した。

併せて、県社協主催の各種研修や関連団体等が開催するテーマ別の専門研修などに積極的に参加させるなど、市社協を担う人材の育成に重点を置いて実施した。

#### (1) 職員全体研修会

開催日時・場所		テーマ・内容
第1回	7/20(土) 9:30～12:15 多目的ホール	<ul style="list-style-type: none"><li>・テーマ「平成30年7月豪雨災害の廿日市市社協の取組みを振り返る」</li><li>全体振り返り</li><li>グループでの振り返り</li><li>全員発表、グループ発表</li></ul> <p>【参加人数：41人】</p>
第2回	11/16(土) 9:30～12:30 多目的ホール	<ul style="list-style-type: none"><li>・テーマ「社協らしい仕事の仕方を学ぶ」</li><li>事業担当者会議（ボランティアセンター・生活支援体制整備・生活支援センター・権利擁護事業）の報告</li><li>社協の仕事の振り返り</li><li>事例検討～グループワーク～</li><li>グループ発表、全体講評</li></ul> <p>【参加人数：37人】</p>

#### (2) 新任・若手職員研修会

開催日時・場所		テーマ・内容
第1講	8/29(木) ※午後の部 15:00～16:30 作業室2 ※夜間の部 17:30～19:00 リハビリ室	<ul style="list-style-type: none"><li>・テーマ「組織・身分・給与について学ぶ」</li><li>社協の定款及び各種規程</li><li>社会福祉法人制度の概要と評議員の役割</li><li>役員及び評議員の選出、監査、理事会及び評議員会の開催</li><li>会員、部会、弔慰、表彰</li><li>職員の任免、服務、福利厚生、表彰、給与等</li></ul> <p>【参加人数：午後の部6人、夜間の部7人】</p>
第2講	9/5(木) ※午後の部 15:00～16:30 リハビリ室 ※夜間の部 15:00～16:30 リハビリ室	<ul style="list-style-type: none"><li>・テーマ「事務処理・経理・事業管理について学ぶ」</li><li>日常業務</li><li>緊急時の対応</li><li>文書の取扱い</li><li>職員の管理</li><li>経理業務</li></ul> <p>【参加人数：午後の部7人、夜間の部6人】</p>

第3講	9/12(木) ※午後の部 15:00～16:30 栄養指導室 ※夜間の部 17:30～19:00 リハビリ室	・テーマ「社会福祉と社会福祉協議会の成り立ちや役割などの基本的な知識を学ぶ」 社協とは何か・・・その変遷 社会福祉協議会とは何か 廿日市市社協の組織と事務分掌 廿日市市社協の事業と予算  【参加人数：午後の部9人、夜間の部4人】
	9/5(木) ※午後の部 15:00～16:30 栄養指導室 ※夜間の部 15:00～16:30 リハビリ室	・テーマ「廿日市市及び関係機関・団体等との連携の必要性を学ぶ」 廿日市市地域福祉計画と廿日市市地域福祉活動計画 民児協、五師士会、その他団体等との連携 廿日市市民による福祉活動のあゆみ  【参加人数：午後の部6人、夜間の部6人】
	9/12(木) ※午後の部 15:00～16:30 栄養指導室 ※夜間の部 17:30～19:00 リハビリ室	・テーマ「地域福祉を巡る動向と社協の課題について学ぶ」 生活困窮者生活支援事業 引きこもり問題への対応 地域包括ケア体制整備事業 権利擁護事業  【参加人数：午後の部8人、夜間の部5人】

### (3) その他研修

研修内容	参加者
社会福祉法人理事・監事の改選手続き研修	1人
社協経理研修	1人
広島県社会福祉大会	1人
社会福祉法人会計決算研修	1人
ストレスケア研修	2人
社会保険・労働保険実務研修	1人
社会福祉法人会計基礎研修	1人
福祉職員キャリアアップ研修（中堅職員コース）	2人
福祉職員キャリアアップ研修（チームリーダーコース）	1人
アンガーマネジメントを活用した伝わる叱り方	1人
問題をそのままにしないための思考力向上研修	2人
OJT推進研修	1人
チームの力を最大限に活かした問題解決の実践研修（初任者コース）	3人
社会的課題解決セミナー③ 社会的教養×地域子育て実践セミナー	1人
安全運転者講習	1人
社会福祉法人会計実務講座（初級コース）	1人
キャリア別社協職員研修（中堅職員）	1人
キャリア別社協職員研修（管理職）	1人
経営基盤強化セミナー	1人
災害を通じて地域づくりを考えるシンポジウム	1人
社会福祉夏季大学	4人

## 2 法人運営

### (1) 自主財源の確保

寄付・会費という地域福祉への参加・貢献の動機づくりと、会員に対しての謝意を表するため、市社協の団体会員並びに賛助会員のお名前をあいプラザ正面入り口に掲示するなど、PR活動に取り組んだ。また、イベント時に会員勧誘をするなどその周知に努めた。

<会員・会費・寄付の状況>

区分	人数等	金額
一般会員（佐伯、大野）	11,409件	5,499,550円
賛助会員	283人	822,000円
団体会員	104団体	598,500円
寄付金	183件	2,958,826円

### (2) 役員等の状況及び会議の開催状況

<役員等の状況>

理事	13人(欠員1人)
監事	3人
評議員	25人(欠員3人)

(令和2年3月31日現在)

#### ア 理事会

開催日	議題	出席状況
令和元年 第2回 6/4	(1) 平成30年度事業報告及び資金収支決算について (2) 新役員候補者の承認について (3) 令和元年第3回定時評議員会の招集について	12人/14人 (3人)
令和元年 第3回 6/24	(1) 会長（理事長）の選定について (2) 副会長の選定について (3) 常務理事の選定について (4) 部会員の選出について	13人/14人 (3人)
令和元年 第4回 11/28	(1) 定款の変更案について (2) 評議員選任等委員の選任について (3) 令和元年第4回評議員会の招集について	12人/14人 (3人)
令和2年 第1回 2/3	(1) 理事候補者の承認について (2) 評議員候補者の推薦について (3) 評議員選任等委員会の招集について (4) 令和2年第1回評議員会の招集について	11人/14人 (1人)
令和2年 第2回 3/17	(1) 令和2年度事業計画及び資金収支予算について (2) 令和元年度収支補正予算について (3) 組織規程の一部改正について (4) 非常勤職員就業規程の一部改正について (5) 臨時職員任用規程の一部改正について (6) 事務局長給与規程の一部改正について (7) 嘱託職員給与規程の一部改正について (8) 非常勤職員給与規程の一部改正について (9) 決裁規程の一部改正について	12人/14人 (2人)

		(10) 令和2年第2回評議員会の開催について	
--	--	-------------------------	--

※出席状況の（ ）内は監事の人数

イ 正副会長会議

開催日	議題	出席状況
令和元年度 第1回 5/30	令和元年第2回理事会の打合せ (理事会運営の情報共有)	3人/3人
令和元年度 第2回 3/10	令和2年第2回理事会の打合せ (理事会運営の情報共有)	2人/3人

ウ 評議員会

開催日	議題	出席状況
令和元年 第3回 6/24	(1) 平成30年度事業報告及び資金収支決算について (2) 理事の選任について (3) 監事の選任について	22人/28人 (3人)
令和元年 第4回 11/28	(1) 定款の変更案について	20人/28人 (3人)
令和2年 第1回 2/20	(1) 辞任に伴う理事の選任について (2) 新たに実施する事業、終了する事業について (3) 定款の変更について	22人/28人 (3人)
令和2年 第2回 3/31 (書面決 議)	(1) 令和2年度事業計画及び資金収支予算について (2) 令和元年度収支補正予算について (3) 苦情解決に関する第三者委員の諮問について	同意書提出 28人/28人

※出席状況の（ ）内は監事の人数

エ 監査会

開催日	内 容	出席状況
5/27・5/28	平成30年度資金収支決算に対する監査	2人
5/28	平成30年度事業に対する監査	1人
11/7・11/11	令和元年度上半期の事業に対する中間監査	1人
11/11	令和元年度上半期の会計・財産状況に対する中間監査	2人

オ 評議員選任等委員会

開催日	議題	出席状況
令和2年 第1回 2/5	(1) 評議員の選任について	4人/4人

カ 役員研修会等

開催日	議題	出席状況
第65回広島県 社会福祉夏季 大学 8/18	テーマ「ともに創る未来のために 今、自分たち ができること」 講義1「人生100年時代の実践的幸福論～幸せ の源は地域の絆だった～」 講義2「本人が夢をカタチにできるまちづくり ～地域共創と伝承～」 講義3「認知症とともによりよく生きる今と未 来に向けて」	理事2人 監事1人 評議員3人
廿日市市社協・ 8/27	テーマ「我が事・丸ごと」地域共生社会の実現	理事10人

廿日市市民児協 合同研修		に向けて～共に取り組むべき課題を考 える～ 講師 社会福祉法人全国社会福祉協議会 中央福祉学院副部長 後藤 真一郎氏	監事1人 評議員8人
社会福祉法人 理事・評議員 研修	1/31	テーマ「利用者に信頼される法人のための理事・ 評議員の役割と責任」	理事2人 評議員1人
社会福祉法人 監事研修	1/31	テーマ「利用者に信頼される法人のための監事 の役割と責任」	監事1人